

○【報告】

「王子公園再整備基本計画（案）」について

1 「王子公園再整備基本計画（素案）」にかかる市民意見募集結果

(1) 意見募集の期間

令和5年10月2日（月）～10月31日（火）

(2) 意見通数・件数

①市民意見募集による市民の意見	251通（685件）
②市民意見募集による市民以外の意見	104通（280件）
③わたしから神戸市への提案	2通（2件）

合計 357通（967件）

(3) 主な意見と市の考え方（要旨・抜粋）

【主な意見】

- ・阪急沿線で山の稜線が見えるのはここ王子公園駅くらい。今の景観を変えないでほしい。
王子公園の樹木は一体どれだけ伐採されるのか。なるべく保存という文言ではよくわからない。川沿いの遊歩道は夜暗い上に、人気のない一本道になるので、歩くのに危険を感じる。
- ・大学側も学外の人も図書館や食堂なども利用できるような計画を立てている。リスクリングの場も増えるので、実現してほしい。
- ・動物園の動物の数を減らすのは近年の科学的観点からして妥当な判断だと思う。
動物の削減に反対。動物園を拡充してほしい。
動物たちとのふれあいは、命の重みや大切さを学べる貴重な経験であり、動物園の役目である。
- ・緑の広場等は芝生や石畳み等、極力自然が感じられる仕様に整備してほしい。
芝生広場を作るぐらいなら、ベビーカーや車いすも不自由を感じない動線を確保してほしい。
スタジアムが住宅地、高齢施設のすぐ近くに移り、騒音や景観について悪化することが考えられる。許容できない騒音や光害が発生するのではないかと心配。
駐車場への進入路の車の動線と駅からの歩行者の動線を分離してほしい。
駐車場や建物は摩耶山が見えるくらいの低さにしてほしい。
- ・防災拠点、物資集積拠点、避難所、ヘリの離発着場など市民を守る機能を保持すべき。
- ・都心近くへの大学誘致は、若年層や交流人口の増加、産学連携の点で将来のために重要。
大学ゾーンはいらない。大学はポートアイランドに作ればいい。
- ・プール・相撲場・テニスコートなど今ある施設は減らすことなく、王子公園内に維持・存続・整備してほしい。
全体として賛成。特にプールを廃したのが良かった、年間で2か月しか稼働しない施設は不要。
王子公園の再整備計画大賛成。綺麗に生まれ変わるのを心待ちにしている。

【市の考え方】

- ・「新たな『原田の森』の創造」として、公園全体の魅力を向上させながら、良好な景観の維持・向上を図り、桜を含む樹木については、新たな植樹などにより現状以上の本数を確保します。また、川沿い園地については、既存の緑豊かな空間を維持しながら、明るく安全で快適な遊歩道と空間を整備します。
- ・「学術・文化拠点のシンボルの創出」として、大学には、リカレント・リスキリング教育の機会の提供や、レストランや図書館といったキャンパス施設の開放などを求め、地域に開かれた大学の実現に向け取り組んでいきます。
- ・「王子動物園の魅力向上」として、現在飼育している約 120 種の動物について、動物種ごとの繁殖方針を定めた動物収集計画を策定し、「調整種」と位置付けた動物種は急激に減らすのではなく、終生飼育又は譲渡などにより、他の動物園等とも十分に調整しながら適切に管理していきます。また、動物とのふれあいを通じた学びの機会等の教育プログラムや学校教育との連携を充実し、「命の大切さ」や「生物多様性に対する理解」を深める教育を推進していきます。
- ・「公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上」として、ベビーカーや車いすの方がアクセスしやすいバリアフリーの園路も確保します。スタジアムでは、指向性に優れたスピーカーの導入や機器の配置場所の工夫など防音対策を実施するとともに、周辺への光漏れに配慮し指向性に優れた照明設備を導入します。また、駐車場アクセス園路については、歩車分離を図るなど安全対策を行います。
- ・「広域防災拠点の機能強化」として、緊急避難場所、緊急時のヘリコプター離着陸場や物資集積配送拠点、自衛隊等の救援活動拠点などの機能を確保・強化していきます。
- ・再整備にあたっては、公園内の施設を適切に維持・更新し、将来の世代へ確実に継承するため、今ある施設をそのまま更新するのではなく、持続可能な神戸の発展に向けて、王子公園エリアの「新たな価値」を創出することが不可欠であり、大学誘致は最も有力な施策であると考えています。
- ・公園内の施設については、利用状況や全市的な配置状況などを踏まえ、園内外で再整備、代替・機能確保、園外施設の充実を図るなど、出来る限り従前施設の機能を確保します。

【主な意見と市の考え方】 資料2のとおり

2 王子公園再整備基本計画（案）

【意見等を反映させた箇所】 資料3のとおり

【王子公園再整備基本計画(案)】 資料4のとおり

3 今後の予定

令和5年12月	都市計画案の縦覧
令和6年2月～	都市計画審議会の開催
	都市計画の決定・基本計画の策定
令和6年度	工事着手
	土地譲渡契約締結

(1) 新たな「原田の森」の創造 ① 46件 ② 15件

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>王子公園の桜が美しく、六甲・摩耶山の美しいみどり。動物園、ゆったりとした園内。これだけ揃った素晴らしい処所は有りません。</p> <p>最近高い建物が増え、街を歩いても神戸ならではの山や海が見えなくなってきてとても残念に思っています。せめて、神戸市が作る場所は景色を塞がないで欲しいです。お願いいたします。</p> <p>王子公園は緑がいっぱいで充分きれいです。今の景観を変えないでほしいです。</p> <p>さらに、大学の建物や立体駐車場、新グラウンドが新たに建設されることにより、王子公園の景観や自然環境が悪化します。</p>	<p>5つの基本目標の1つである『3. 1 新たな「原田の森」の創造』において、王子公園全体の魅力を向上させながら、良好な景観の維持、向上をはかること、存在感のある緑のボリュームや景観を未来につなげていくことを掲げており、着実に進めます。</p> <p>再整備の過程で、一定の樹木を伐採するということは必要になりますが、景観や自然環境に十分配慮し再整備を進めます。</p> <p>建築物については、壁面・屋上等における緑化の導入や建築意匠により圧迫感の軽減をはかります。</p>
2	<p>王子公園全体や動物園内の樹木の伐採について、何本伐採するつもりなのか早急に明らかにしていただきたい。樹木の伐採によって、桜の名所と豊かな自然を市民から奪わないでほしいと思います。</p> <p>再整備によって、王子公園の樹木は一体どれだけ伐採されるのか、もっと具体的に市民に情報公開してほしい。なるべく保存という文言ではよくわからない。何割の緑が減るのか。現状と同程度の樹木数を確保すると神戸市のFAQで説明しているが、大木を伐採し、低木を植えるといったことにならないか。</p> <p>特に、スタジアム移転予定地は素案にもあるように桜並木がある。移転によって伐採されるのではないかと懸念している。</p> <p>緑豊かな王子公園、動物園なのに、再整備の中で何本伐採するつもりなのか。動物園内、公園北側、青谷川の桜並木を守ってほしい。</p> <p>王子公園内の樹木、桜はどれくらい切られるのでしょうか？何年もかけて大きく緑いっぱい私達の環境を守ってきてくれました。樹木は切らないで下さい。一度切ってしまったら大きくなるのに何年もかかります。</p> <p>川沿いの遊歩道は夜暗い上に、人気のない一本道になるので、歩くのに危険を感じる。園内にもホームレスの方がテントで寝ていることもある。人の往来が少なく、外の道路民家からも見えず、逃げ道も無いような遊歩道は犯罪が起きる可能性もあるので、園内の動線は良く考えて設計して欲しい。園外と繋がる道を増やすとか、見通しを良くするなど。</p>	<p>公園内の樹木には、火災時などに延焼を遅延・防止する防災機能や、気温の緩和や緑陰の提供、生物の生息環境、都市環境維持・改善の機能など多様な役割があります。</p> <p>このため、樹木の保全については、できるだけ残すというのが基本であると考えています。再整備の過程で一定の樹木を伐採するということは必要になりますが、桜や景観木となる大径木など、既存樹木の保存活用に努めます。</p> <p>今後、詳細な検討を進め、設計や施工計画を立案する際に、樹木の保存や移植、伐採、新たな植樹等の植栽計画を明らかにしていきます。</p> <p>桜も含めた既存樹木の中には、老木化や活力の低下したのもみられますが、新たな植樹などにより現状以上の本数を確保し、桜の名所も継承していきます。</p> <p>また、川沿い園地については、既存の緑豊かな空間を維持しながら、見通しの確保や明かりの確保、フットライトの配置など、昼夜を問わず、明るく安全で快適な遊歩道と空間を整備します。動線計画についても、出来るだけ他の園路や歩道等からの視認性が高まるよう、検討を進めていきます。</p> <p>桜の通り抜けルートが、さらに魅力的なものとなるようシンボルプロムナードには、新たに桜を植樹しルートを拡大します。</p> <p>なお、桜を含む樹木については、『3. 1 新たな「原田の森」の創造(2) 計画概要』において、「新たな植樹などにより現状以上の本数を確保すること」および「適切な照明配置やフットライトを活用した、明るく安全な空間整備」を、『(3) 今後の検討に向けて』において、「防火樹林帯としても機能する公園周囲の既存樹木について、保存に努めること」を明記しました。</p>

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>大学側も学外の人にも図書館や食堂なども利用できるような計画を立てているのでぜひ関西学院大学には来ていただきたい。リスクリングの場も増えるので、実現して欲しい。</p> <p>阪急沿線で山の稜線が見えるのはここ王子公園駅くらいということをご存じでしょうか。大学の建物高さを4階建て以下にしてください。これだと各階3メートルとしても12メートルで屋根がプラスされても建物高さが抑えられると思料致します。何卒山並みが見えるような建物でお願い致します。</p> <p>大学への用地売却に反対する人がいます。「少子化で大学建設は時代に合わない」と言われると納得する人が多いですが、だからこそ動物園隣接地への大学建設は意義があるとも言えます。そのためには、動物園との一体構想をハード・ソフト双方で行えば最高です。地球環境を体感・学習・研究できる最高学府がこの地にできることは誰もが歓迎します。</p> <p>開かれた大学を大原則とし、緑地帯を多くとったり食堂や図書館を開放するなどして一般市民も利用できるようにすべき。</p> <p>あえて「公園」の中に、大学を誘致する必然性が理解できない。 公園に求められる公共性の一部である「開放性」を大学は完全には実現できないのではないか。ゼミ等の授業には市民は参加できないと思われるし、大学の敷地・施設全てに市民が立ち入る事はできないのではないか。</p> <p>大学誘致で3,000人以上が王子公園に来た場合市民に開放すると言いつつも出来ると思いますか？</p> <p>4000人規模の大学誘致に関わる経済効果が年間74億や116億と見積もっていますが、見積もりの内訳を公表してください。また、公共の土地の売却益が何に使用されるのかは開示されるべきではないですか。市民に還元されるのでしょうか。</p>	<p>大学には、古くから「原田の森」として育まれた王子公園周辺エリアの歴史・文化、山から海まで広がる神戸を代表する美しい周辺景観との調和をはかるとともに、オープンスペースの確保や回遊性の向上に資する、開かれた大学と呼ぶにふさわしい施設整備計画を求めています。</p> <p>大学設置・運営事業者の優先交渉権者として決定した大学からの提案では、建物の高さは最大約31m（7階程度）とされており、六甲山の山並みに配慮し分棟配置とすることで、ボリュームを抑えるとともに、建物にも緑を配置し、緑豊かな周辺環境に溶け込む計画となっています。</p> <p>また、学生と地域の人々が交流する機会を創出するとともに、リカレント・リスクリング教育の機会の提供や、日々気軽に訪問できる場としてレストランや図書館といったキャンパス施設の開放など、「地域に開かれた大学」にふさわしい提案となっており、学生と地域等との連携による地域の活性化や課題解決、賑わいが創出されることが期待できます。</p> <p>なお、王子公園に4,000人規模の大学を誘致した場合の経済波及効果の試算結果については、下記ホームページをご参照ください。 王子公園再整備【大学】のFAQ（よくある質問と回答） URL：https://www.city.kobe.lg.jp/a74227/daigaku.html</p> <p>また、土地を譲渡することに伴う収入については、動物園獣舎の整備の財源に充てるのが望ましいと考えており、王子公園の再整備における貴重な財源として活用していきます。</p>
2	<p>大学公募条件に書かれていても、災害時協定も締結せずに、災害時には効力を発するとは思えません。 神戸市の他の大学が締結している、災害時協定は結ぶべきではないでしょうか。</p>	<p>大学は、災害時の避難場所として、屋外避難場所、屋内避難場所を確保するほか、物資集積拠点としての活用、食料や物資等の防災備蓄倉庫の設置、要救助者の応急処置機能の確保など、大学関係者の安全を自ら確保できる防災体制を構築するとともに、受け入れ余地を活用して、周辺住民や公園利用者等の避難を受け入れることとなっています。</p> <p>また、キャンパス内に整備するイベント用電源や食堂内の厨房等について、災害時に利用提供することや、マンホールトイレなどの設置について検討することとなっています。</p> <p>災害時の協定の締結も含め、大学との連携により王子公園の防災機能がより一層強化されるよう、引き続き検討を進めます。</p>
3	<p>大学ゾーン部分を大学に売るのは反対です。賃貸にしてもらいたい。 理由：もし大学が解散等した場合に、その土地を売却する事になると考えます。その場合に大学ゾーン部分が住宅地になってしまうと「原田の森」を守る事ができなくなると考えるからです。</p>	<p>大学には、将来にわたってその役割を担い続けていただく必要があり、期間を限定した賃貸借契約はなじまないことから、土地は譲渡することとしました。</p> <p>なお、大学誘致にあたり、都市計画で建物の用途を大学に限定する予定であり、また、公募要項で本市の承認を得ることなく、土地を第三者に譲渡することを禁止しており、土地譲渡契約でもその条項を盛り込みます。</p>

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>大学ゾーンとされているスペースも含め、動物の種類は減らさず、専門家を入れた委員会をつくり、現時点で最高の「行動展示」にすべき。</p> <p>今の王子動物園の見せ方が良いとお思いでしょうか？狭いケージに動物や鳥たちを閉じ込めて見学者の目に晒すのは殆ど動物虐待状態だと前から思っていました。種類を半減させて動物園面積がそのままなら一種族の面積が倍増することですよね。とても良い事だと思います。</p> <p>パンダを始め 130 種程度飼育していて、子供からお年寄りまで1日中散策しながらたくさんの動物たちを観察・見学できる誇らしい所です。もっと減らされるるときは危機感、子供たちのがっかりした顔が思い浮かび、意見します。どうか大人の入園料を上げても、動物園を今まで通り充実させてください。</p> <p>これまで飼育してきた動物を他の施設へ譲渡することは、公的動物園の役割を放棄することになる。どの動物か鳥かはわかりませんが、大切にそだててきた動物、鳥たちをどこにもやらず、最後まで見届けてください。</p> <p>動物園の動物の数を減らすのは近年の科学的観点からして妥当な判断だと思う。しかし大学を誘致するくらいであれば、動物園を広げて、できるだけ多くの動物を存続できる様にするべき。</p> <p>動物の削減に断固反対します。素案を撤回してください。130種の動物の内、調整種として50～60種を削減するのはおかしい。なぜすべての動物を飼育しないのか。調整種に指定された動物はこれまで動物園のために大きな役割を果たしてきた。感謝の気持ちはないのですか。よく動物福祉と言えますね。子どもたちの命の大切さや動物の多様性、進化、歴史を学ぶ機会を奪わないでください。動物園は単に娯楽や癒しの機関ではない。子供たちが命の大切さや動物の多様性を学び、動物を通して世界を知る。動物の進化、歴史を学ぶ大切な機会だ。動物を半減することは、こうした子どもたちの学びの機会を奪うことになる。素案の通り実施すれば、動物園は将来廃園となります。社会教育の施設として動物園を拡充してください。</p> <p>ふれあい広場のゲートには飼育員の方が丁寧に作られたアヒルやヤギの闘病録ファイルが置かれており、どちらも子どもたちの楽しみや情操教育に欠かせない場所であると再認識しました。育てる親にとってもこうした場所が必要な筈です。</p> <p>コレクションプランは動物たちの繁殖、頭数管理はもちろん多少なりとも必要ですが命を区別しているように感じ不快。命の尊さを子供たちに伝える役割ある動物園がそれをしてしまうのはどうかと思う。 触れ合い広場は現状維持して欲しい。触れ合って学ぶことは多いと思うので(鳥インフル等の対策も大変なのは承知ですが)温かみある今の王子動物園が大好きです、これからも応援したいので改悪はしないでください。</p> <p>再整備基本計画素案の動物園編を見ると、現在130種いる飼育動物のうち、50から60種を削減するとされていますが、繁殖を避け、他の園に譲渡するような「調整」は、動物たちの命に無責任だと思います。その方針を子どもたちにどう説明なさいますか。</p> <p>動物の種類を半減すると聞いていますが、子どもたちが学ぶ機会を残して充実してください。心よりお願い申し上げます。</p> <p>動物については、専門家の方々が考えての事ですので良いのですが、フラミンゴは、間近で卵やひな鳥が観察できて、楽しみでしたので、残して欲しいです。</p>	<p>現在、地球規模で野生動物の絶滅が進み、また「ワシントン条約」などにより希少動物の取引が制限される背景もあり、特に海外からの動物入手が困難となっています。このような状況下において、動物園として持続的に運営し、「種の保存」や「調査研究」の取り組み、野生動物の生態、環境保全に関する教育など公益的な役割を積極的に果たすことが求められています。</p> <p>このため、現在飼育している約120種の動物について、域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果などを考慮するとともに、動物種ごとの繁殖方針も定めた動物収集計画を策定することとしました。</p> <p>なお、今回策定する動物収集計画は、国内の動物園と協力して希少種の繁殖等に取り組むため(公社)日本動物園水族館協会が策定しているコレクションプラン(JCP)に準拠したものとなっています。</p> <p>「調整種」と位置付けた50～60種の動物種は、そもそも入手が困難な動物種のほか、保全の重要度が低いため繁殖に取り組みないもの、王子動物園では展示効果が低いと考えられるものなどを分類しており、動物を急激に減らすのではなく、終生飼育、又は他の動物園での導入が可能であれば譲渡するなどにより、他の動物園等とも十分に調整しながら適切に管理していきます。</p> <p>なお、『全体編3. 3王子動物園の魅力向上(2)計画概要 1)動物収集計画』および『王子動物園編2. (1)動物収集計画』において、調整種に「終生飼育」を明記しました。</p> <p>動物収集計画策定作業については、専門性が高いため、有識者や動物園関係者の意見も聞きながら、引き続き精査・検討していくこととしており、社会情勢や動物個体の保全状況等を踏まえて、必要に応じて見直しを行います。</p> <p>今後においても、動物収集計画に位置付けた飼育動物とともに、動物とのふれあいを通じた学びの機会等の教育プログラムや学校教育との連携を充実し、「命の大切さ」や「生物多様性に対する理解」を深める教育を推進していきます。</p> <p>なお、『王子動物園編4. (2)動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進 ②教育プログラムの充実』において、「動物とのふれあいを通じた学びの機会」を明記しました。</p>

	<p>ふれあい広場は学びの広場に移動する、と目にしましたが、ゾーン分けには含まれていないため、小さなスペースになるのでは、と推測しています。ふれあい広場では希少ではないが日常出会えない動物たちと触れ合い、飼育員さんたちが手厚く彼らのケアをしている様子を間近で見る。これらは命の重みや大切さを学べる、子どもは当然ながら大人にも大変貴重な経験であり、このような学びを提供することも動物園の役目であると考えます。</p> <p>「調整種」とされる動物たち（フラミンゴ等）の飼育を取りやめ、その居住区を利用するという計画ではないでしょうか。希少動物を守り、動物福祉を考慮する。耳に心地の良い響きですがそれを遂行するための「調整種排除」では、全く賛同できません。フラミンゴの産卵、抱卵、孵化、雛の成長を目の当たりにする。これらは命の重みや大切さを学べる、子どもは当然ながら大人にも大変貴重な経験であり、このような学びを提供することも動物園の役目であると考えます。</p> <p>“ふれあい広場”のような、身近に動物と接し希少であるかどうかにかかわらず高齢になった動物の命も大切に作る気持ちを育むようなエリアがあるのが王子動物園の良さであり残していくべきだと思います。</p>	
2	<p>子供向けに設計するより、大人が行ってみたいと思う動物園を目指すべきだと思う。野生に近い生態を観られるとか、現地に来たようなリアルな景色にするとか、ここでしか体験できないような園にする工夫が必要になると思う。</p> <p>私が特に望むのは動物園の充実です 動物達がのびのびと幸せに暮らせるようにして下さい 動物園の飼育員さんや職員の方々も働きやすい事は必須です。</p> <p>現在の動物舎が狭くて、動物たちにとって快適な環境ではないということは誰もが認めることです。旭山動物園が取り組みをはじめ、今では全国に広がっている、動物たちにやさしい”行動展示”はぜひ実現して欲しいです。</p>	<p>王子動物園のリニューアルでは、新たな獣舎配置として、動物が生息する地域や気候風土との関連性、動物の形態や機能の違いがわかりやすいよう9つのゾーニングを行い、それぞれのゾーンごとに獣舎を配置します。</p> <p>動物の展示方法については、動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子が観察できる展示や動物たちの暮らしを豊かにする環境エンリッチメント等の取り組みにより、飼育環境の向上をはかります。</p> <p>更には、動物たちとの出会いをより印象付けられるよう、複数の動物種を見通せるような「通景」や動物を間近に観察できるような演出や工夫を凝らし、魅力ある動物園にしていきます。</p> <p>なお、動物福祉に配慮した最適な飼育環境を創出していくため、(公社)日本動物園水族館協会が策定した「適正施設ガイドライン」を参考に、獣舎整備を行うこととしており、ガイドラインの適用がない動物種についても、有識者の意見や他の動物園の事例も参考に動物種の特性に応じた適正な飼育面積を確保していきます。</p>
3	<p>王子動物園のリニューアルは賛成。老朽化しているのですしかない。併設する遊園地はいらない。新しくしても30年、40年経てば老朽化して危険なだけ。</p> <p>王子動物園の中にある小さい子供たちが喜ぶ遊園地は残して欲しい。派手なちょっと大きな子供とか大人を対象にした遊園地はたくさんあるが、2歳3歳4歳位の小さな子供でも楽しめる遊園地は、神戸市には王子動物園以外にはないので、必ず残してほしいです。</p> <p>王子動物園、遊園地の充実をお願いします。王子公園は子ども達にとって大切な場所です。私達家族も休日には動物園で動物を見、遊園地でよく遊びました。子ども達が小さい時はお金があまりかからず学べて遊べる場所が必要です。</p> <p>「遊園地の廃止」は約束違反である。土・日・祝日には遊園地で遊ぶ家族連れが特に多い。小さい子どもたちが楽しみにしている遊園地を観覧車以外なくし、レクリエーション的な広場に分散するという。遊園地に対するあいまいな神戸市の計画には断固反対だ。遊園地を目指して来園している親子の楽しみを奪ってはならない。</p>	<p>基本方針（修正素案）を提示した際は、立体駐車場の位置を変更することによって、動物園と遊園地をあわせて、現在と同程度の敷地面積を確保することとしました。</p> <p>今回策定した基本計画（素案）に基づく動物園のリニューアルにおいても、動物園と遊園地をあわせて、現在と同程度の敷地面積を確保していきます。</p> <p>遊園地については、既存の遊具の多くが老朽化しているため、施設の老朽化への対応や動物園としての役割等を踏まえた新たなレクリエーション機能へと転換する必要性があり、子どもたちが動物や自然をより身近に感じることができるような安全で安心なレクリエーション機能を年齢層に応じて「遊びの広場」や「賑わい広場」に再配置します。</p> <p>また、基本計画（素案）【王子動物園編】に記載のとおり、再整備にかかっている工程計画のうち、第1フェーズの間は、遊園地を基本的に存続させる予</p>

	<p>既存の遊園地をそのまま残す案を強く希望します！乗り物等の老朽化もあるかと思いますが、老舗の遊園地（東京 花やしき等）にメンテナンスのノウハウを問う等して、新しく作るものより、そちらに経費をかけて頂きたいです！思い出のたっぷり詰まった素敵な遊園地、古き良き場所を奪わないでほしいです！</p>	<p>定としています。なお、観覧車については、老朽化への対応をはかりつつ、当面の間存続させます。</p>
	<p>最初に遊園地に関して存続となっていました、今回記述がないということは将来的にはなくすことなのか、はっきりして下さい。</p>	
4	<p>今の来園者を見ると桜の季節、春や秋の気候の良い季節の週末は駐車場が一杯になるが、夏や冬、梅雨の時期は週末でもかなり来園者は少なくなる。今の施設では駅からの動線も園内も、空調の効いた室内で座って休める空間が少ない。屋外も座れるところは少ない。半日ほど屋外を歩き回ることになるので、気候の良い季節以外は、来園者は当然少なくなる。特に今の動物園は子供向けの施設となっており、連れて行く親としては、炎天下や極寒の季節に子供を連れて行く気にはなれない。屋内で食事ができる施設も少なく、メニューも魅力的とは言えず、昼食も準備する必要がある。駅からゲートまでの間にお土産や飲食ができる屋内施設があったり、園内でも屋内飲食できるスペースを増やした方がよい。一方で平日のことも考えると、それらのスペースは外からも利用できるのが良いと思うし、民間の飲食店や業者に入ってもら方がよい。</p> <p>公園内は高低差があるので、シンガポール動物園のようにトラムで移動できるなど、移動手段を設けてはどうか。また、野生の環境に近く、非日常の経験ができるように、人造物のコンクリートやアスファルトなどが目につかないような工夫をして、今よりも植物などの自然を増やしてはどうか。青谷川の水を利用するなど。動物との距離感や、観やすさは工夫して欲しい。空中に通路を設けて、上から動物を観られるとか、死角を無くす配置を検討して欲しい。</p> <p>現在の入り口 動物園の玄関 子供たちに夢を与える様なゆったりした場所には是非お願いします。一度作り直したら長く使うものです 細かく分割してあれもこれもは必要無いと思います 時代は動いて居ます 箱ではなく命のある設備にお願い致します。</p> <p>現行計画では入り口が一か所だけになっている。複数入り口を設けて駐車場周辺から入れるようにすべき。斜面に立地しているので、上から入って、降りてゆくかたちで回遊できれば、楽。高齢者にも障害者にも優しい。せつかく駐車場を敷地のの上の方に設けたのに、わざわざ下まで降りてから入らなければならない。「出場・再入場」が可能なら、「入場」も可能にするべきなのに、そうっていない。遠回りさせる設計はインクルーシブではない。大阪の天王寺動物園でも京都市動物園でも姫路市動物園でも、入り口は複数ある。上から下への降りてゆく構造は、「天王寺動物園」「海遊館」「人と防災未来センター」がそうになっている。</p> <p>インクルーシブの公園を作ろうという試みは、明石市の「17号池魚住みんな公園」（じゅうななごういけ・うおずみみんなこうえん）や兵庫県立明石公園ですでに始まっている。</p> <p>今の動物園をインクルーシブな動物園にしてください。そのための必要な敷地面積や予算を確保してください。障害者や高齢者が安心して安全に来園できるよう改善してください。</p> <p>子供達には伸び伸び暮らす動物が必要であり、場所が必要。（神戸は遊園地もない） 親達が子供をつれて日々、通える場所が必要。王子動物園は自然、動物、山の風景、季節がある。守るべき。</p> <p>異常高温対策をとられようとしているのはとても良いと感じました。</p> <p>王子公園に機関車は必要です。ふれあい広場にある機関車は、神戸の電車の歴史がわかる貴重な生の歴史的価値のあるものです。動物園がリニューアルされても、王子公園の歴史を語る証拠の品として残すべきです。基本計画には機関車の事は触れられていませんが、ゾーニングにもないため、断りもなく撤去予定になっていませんか。王子公園に機関車は必要です。開学の発祥の地の看板より重要なものです。</p>	<p>誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場を創出するため、観覧園路やトイレ等の施設、情報発信等については、ユニバーサルデザインに配慮し整備します。</p> <p>また、ストレスのない観覧環境に向け、高低差のある王子公園・動物園の現状を踏まえ、新たなモビリティ技術の進展も踏まえつつ、人にやさしい移動手段の確保に向けても検討します。</p> <p>来園者が快適に観覧できるよう立地環境を十分活用し、異常高温対策や猛暑、雨天時利用も想定したベンチや休憩スペースを適切に配置するなど、ストレスのない観覧環境を整備します。</p> <p>また、動物園をゆっくり楽しんでもらうための、ゆとりある休憩広場等、来園者にとって居心地のよい広場空間を提供します。</p> <p>特に、メインゲート付近においては、飲食・物販施設等、魅力的な賑わい機能を確保し、快適性や利便性を高まるよう整備していきます。</p> <p>メインゲートの位置については、公共交通機関からのアクセスを考慮し、現在の位置に近い、王子公園南側に整備する計画としています。メインゲートから入ってもらうことで、世界各地を巡りながら各地域に生息する動物を観覧しているように感じられる仕掛け等、学びながらストーリー性のある観覧ルートを設定しています。</p> <p>また、駐車場は王子動物園の北東側に計画していますが、動物科学資料館の周辺には、メインゲートと同様に多くの方が滞留可能な空間を確保することが困難であるため、動物科学資料館付近には、出口を設置し再入場も可能となるよう計画しています。このことで、駐車場を利用した動物園来園者の一定の利便性向上に寄与すると考えています。</p> <p>六甲の自然や動物たちが棲む世界に誘う新たなゲートとして、来園者の期待感を高めるデザインとするとともに、王子公園全体が灘文化軸の新たな拠点として機能するよう検討します。</p> <p>なお、王子動物園に設置している機関車については、撤去・残置は未定です。活用も含め今後の方針について検討します。</p>

5	<p>入場料はもう少し値上げしても良い。老人の無料も不要。</p> <p>近隣都市やインバウンドの来園者が増える魅力ある動物園にしてください。 魅力ある動物園にすれば、来園者も増え、観光都市神戸の拠点になるのではないのでしょうか。</p> <p>魅力ある動物園になれば、収益はあがると思います。入園料も少しあげてもいいのでは無いですか？</p> <p>今は安すぎると思うので 800～1000 円くらいには値上げしてよいと思います。個人的に現在サポーターを継続しています。クラブファンにも参加しました。その分動物たちや飼育員さんたちの環境、報酬も長時間勤務に見合う魅力的な職となるよう願います。 「思わず手に入れたくなる王子動物園でしか買えないオリジナルグッズ」に関して実写で低価格のポストカードやアクリルグッズが欲しいです。かわいいタンタンのマスコットサイズぬいぐるみも欲しいです。タンタンの誕生日グッズの売れ行きのよかった実写アクリルスタンドとアッキーの再販をしてほしいです。イラストグッズは、ヤム烈さんののがなくなってきて他のイラストレーターのグッズや実写グッズが増えている気がします、イラストの洗練度もデザインもヤムさんに追いついてない気がします。 さくらタンタンは可愛かったので布ものではなく紙のグッズが欲しかったです。撮影に反射しないバックプリントの黒のロンTなどが欲しいです。</p> <p>経費削減にアマゾン欲しいものリストを活用して物品の寄付を募るのも良いと思います。他の公立の動物園もやっています。</p>	<p>再整備に伴う料金の引き上げは考えていません。</p> <p>基本計画（素案）では、理念・コンセプトとして「六甲の豊かな緑を感じ動物と人がいきいきと過ごしながら世界につながる動物園」としており、海外からの来園者からも受け入れやすい環境となるよう、多言語に対応した情報発信など、外国人来園者も含めだれでもがスムーズに楽しめる環境整備を進めていきます。</p> <p>グッズについては、各種企業等とのコラボレーションもはかりながら、展開していきます。</p> <p>動物園運営に伴う市の負担の軽減をはかるために、より効率的な運営を行っていくことが必要であるため、他施設を参考にしながら収益改善についても取り組んでいくとともに、野生動物の保護繁殖等の取り組みや動物たちの魅力を幅広くPRし、新規来園者やリピーターを増やしていきます。</p>
6	<p>動物園の最終目標 2045 年とありますが、あまりにも長くないですか？ 第1フェーズの 2030 年でどこまで生まれ変わるのでしょうか？</p> <p>ほぼ全ての獣舎を移動させることによる動物のストレスは大きい。</p>	<p>王子動物園のリニューアルは、通常営業を行いながら進めていくこととしており、来園者の安全や動物への影響もできる限り少なくなるよう工夫しながら整備を進めていきます。また、動物移動に際しては、動物たちの負担がないよう馴致しながら進めていくこととしていますので、通常よりも整備に時間を要する工程となっています。</p> <p>第1フェーズでは、サバンナゾーン、爬虫類館、アジアゾーンの一部、管理棟を含むメインゲートの整備を進めることを考えています。第2フェーズ以降については、社会情勢や飼育動物の状況などを見据えながら整備手順を検討します。</p>
7	<p>自然を生かした動物園で、60 年前から何度も通いました。小さな子供でも遊べる遊具があり、市民の憩いの場所です。私も息子も孫達も大好きな動物園です！現状維持を強く求めます。</p> <p>小さい頃からお世話になっている動物園がなくなるのは寂しいです。1000 円未満で入園できて、多数の動物が見られるのは素晴らしいから続けてほしい。園内に遊園地があるのも魅力的です。ぜひ動物園を残してください。</p> <p>動物園は徹底的に専門家、プロの手による再整備をのぞみます。</p> <p>再整備基本計画素案の動物園編を最初に見たとき、失礼ながら私はひどく落胆しました。整備後の王子動物園が平凡でつまらない姿に変えられてしまうのが分かるからです。生育地域や動物種の分類などでゾーン分けする展示は、網羅的なものかもしれませんが、丘のような立地と大系木・桜並木を生かした王子動物園ならではの魅力を失わせる計画になっています。来園者アンケートや公式サイトでのリニューアル意見募集で、せっかく市民の声を集めていらしたのに、「なぜ他県からも王子動物園に通うリピーターが多いのか」については分析がなさらなかったのでしょうか。また、動物福祉の向上を目標に掲げながら、展示時間の後に飼育動物が過ごす居住スペースの拡充について基本計画素案に記述がないのはなぜですか。有識者ヒアリングのまとめについては、基本構想の中で拝見しましたが、有識者の意見でも「王子動物園ならではの特徴」を求める意見や「予備的スペース」「収容後の住環境</p>	<p>王子動物園は、経年による獣舎等の老朽化に加え、利用者ニーズの多様化、技術の進歩など社会情勢の変化に対応するため、施設更新が必要となってきており、種の保存への貢献、動物福祉の意識の高まり、展示方法の多様化への対応など王子動物園が直面する課題に対応するため、大規模なリニューアルが必要と考えています。</p> <p>動物園のリニューアルでは、動物園ゾーンとして現在と同程度の敷地面積を確保し、(公社)日本動物園水族館協会が策定した「適正施設ガイドライン」を参考に、寝室をはじめ、動物ファーストに向けた獣舎環境の充実をはかります。</p> <p>なお、基本計画（素案）の策定に向けては、動物サポーターや市民、利用者からこれまでも意見をいただき、また、専門的な分野については、有識者委員から意見聴取を行いながら検討しています。それらを基本計画の検討に反映しつつ、動物園職員である獣医や飼育員と共に検討してきました。これまでもいただいた意見などについては、随時動物園ホームページなどを通して公表していましたが、今回いただいた意見も含め、様々な機</p>

<p>の充実」を求める声がありました。有識者の意見は、基本計画素案のどこに反映されていますか。ぜひ「市の考え方」の中でお聞かせいただきたいです。</p>	<p>会を通じて今後ご意見をいただき、参考にしながら動物園のリニューアルを進めます。</p>
<p>王子動物園の縮小に反対します。私はふるさと納税で王子動物園の年間パスポートを受け取っている王子動物園のファンです。全国には同様に、年間何度も通うファンが大勢います。それは、王子動物園が発信する、飼育動物に寄せる愛情、命の大切さ尊重、綺麗事だけではなく老いの現実などに心を揺さぶられ、賛同しているからです。動物かわいい、だけでは無いのです。</p>	
<p>遠足にくる子供達、特に引率の先生や帯同カメラマンなど大人に観覧マナー、撮影マナーをレクチャー、周知してください。王子動物園ではすでにされているかもしれませんが、他園で色々見聞きますので、こういう指導をしていますというアナウンスがあると一般客にも周知されてよいと思いますし安心できます。</p>	

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>アスファルト地面ではなく、芝生や石畳み等、極力自然が感じられる仕様に整備頂くことを願っています。</p> <p>多世代の未来をサポートする『コワーキングスペース』を作って欲しい。 1) 王子公園を『シリコンバレー』のような新しいビジネスが集う街にして欲しい。 2) 30代～40代の就職氷河期世代(子育て世代)が、明るい未来を創造できるような施設(コワーキング施設)を作って欲しい。 3) コワーキングスペースを作って、近くにできる新しい大学の学生たちと協力して、多世代が新しい取り組み(ビジネス)を始められるような環境を作りたい。</p> <p>公衆トイレを多数設置していただきたい。園の内外を問わず。</p> <p>まず、王子公園の再整備に関しては、大いに賛成です。 ただ、子どもたちが思いっきり体を動かせる場所が今よりも広くならないことには反対です。 海外の友達と話していると、よく言われるのが、日本には子供が目一杯遊べる公園がほぼ無い。日本の子供は、外で遊ばないのか?と。</p> <p>公園に芝生を植えるなど小さいお子さんが走り回れる環境を作ってください。</p> <p>緑の広場は不要です。 JR六甲道南側にも震災以降の公園がありますが、芝生の養生中なことが多く、芝生広場として維持するのは大変ではないでしょうか。また、キャッチボールをしたら道路に出てしまうような広さでは広場としては中途半端です。かえって危険です。 緑の広場の内容をすべて盛り込んだら、とても窮屈な、もったいない空間になると思います。中途半端な広場を作るぐらいなら、ベビーカーや車いすも不自由を感じなくアクセスできる動線を確保してほしいです。</p>	<p>緑の広場(約1ha)においては、3,000～5,000㎡の芝生の広場を確保し、子どもが走り回れる空間や水遊びのできる空間づくりに努めます。芝生広場の管理については、東遊園地での手法を参考に適切に管理していきます。また、ベビーカーや車いすの方がアクセスしやすいバリアフリーの園路も確保する予定です。園内の舗装については、アスファルト舗装だけでなく、芝生や自然土系舗装、ウッドチップ舗装の導入について検討します。</p> <p>また、公園内のトイレの数や規模については、利用者数などを考慮し適切な配置を行います。</p> <p>その他、コワーキングスペースなど、性別や世代を問わず市民が利用できる施設の導入については、今後具体的な設計の中で検討します。</p> <p>なお、『3.4.1 緑の広場・シンボルプロムナード(2) 計画概要』において、「子どもの遊び空間として親水空間や遊具等の設置」および「公園に必要な施設・機能(照明・トイレ等)の適切な配置」を、『(3) 今後の検討に向けて』において、「自然を感じられる舗装材」を明記しました。</p> <p>また、『3.1 新たな「原田の森」の創造(2) 計画概要』において、「ユニバーサルな視点を取り入れた施設整備(例:園地のバリアフリー化、インクルーシブ遊具、バリアフリートイレ)」を明記し、『3.4.2 スポーツゾーン(3) 今後の検討に向けて』において、みんなの広場利用等のイメージに、インクルーシブ遊具のイメージを掲載しました。</p>

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>スタジアムについても、機能が変わらず場所を変えるだけで、多額の予算を使うのは税金の無駄使いに思えるので、用途が増えるとか建て替えるメリットを示して欲しい。</p> <p>王子公園内に、スケートボードやBMXが出来るスケートパークを設置していただきたいです。</p> <p>細かいところでは、スタジアムの座席をこれまでのような長椅子のベンチシートではなく、全席を大人がしっかりと座れる背もたれ付きの椅子にしてほしいという希望はありますが、素案自体に関しては、色々な意見や指摘に対して修正すべき点は修正し、全国の他の公園や動物園そして大学誘致の成功例も参考にしていて、これ以上の案はなかなか考えられない程の良い計画案になったのではないかと思います。</p> <p>サブグラウンドは毎日横を通りますが、朝はお年寄り、昼や夜は若者から中年層がバラバラ利用している程度です。新しく作るスタジアムを解放してあげればいいのかではないですか。</p>	<p>スポーツゾーンについては、「誰もが気軽に利用できる多世代スポーツ活動ゾーン」として、引き続き幅広い競技、地域のイベント等の様々な用途で利用できるスタジアムを整備します。</p> <p>具体的には、スタジアムのフィールドは、アメリカンフットボール、サッカーやグラウンドゴルフ、ラクロス等の競技が可能なスペースとし、周囲に400mトラック（4レーン）、砂場を配置し、陸上競技の練習に対応します。また、市民の日常的な活動にも利用できる一般開放の時間帯を設定します。</p> <p>スタジアム周辺の広場については、スタジアム東側は「多目的広場」とし、休憩スペースやラジオ体操等での利用をはじめ、スタジアムのエントランス空間や大会時のバックヤードエリアとして、シーンに併せた利用が可能な施設を整備します。</p> <p>スタジアム西側は、現状の「ちびっこ広場」と「わんぱく広場」をあわせた広さを確保した「みんなの広場」を整備するとともに、遊具、ボール遊びなど、幅広い年齢層が利用できる施設を検討します。</p>
2	<p>市のプランにある立体駐車場（4階建て、一部屋上にテニスコート併設）や、新スタジアム（結構な高さが予想される）によって、六甲山・摩耶山の山並みが下から見えなくなってしまう。</p> <p>スポーツ施設に関しても周辺に住宅がある環境では騒音問題が発生する上に敷地に余裕がないとその対策も難しくなる。</p> <p>スタジアム移転により、住宅地、高齢施設のすぐ近くに移ることになり、騒音や景観について悪化することが考えられる。</p> <p>許容できない騒音や光害が発生するのではないかと心配しています。市ホームページのFAQにあった通り、スタジアムから発生する音に関して、兵庫県条例に定める騒音の規制基準（公園敷地境界で昼間55dB以下）を遵守してください。</p>	<p>スタジアムについては、『3.4.2スポーツゾーン（3）今後の検討に向けて 1）スタジアム』において、「スタジアム 整備イメージ」を掲載しています。</p> <p>この整備イメージの高さについて、「スタジアムの高さは、フィールドの地盤面から防音壁を含め北側で10m程度、南側で11m程度（最も高い中央部）を想定しています。なお、スタジアム北側における東西道路との高低差は2mから6m程度になります。」を明記しました。</p> <p>今後に向けて、六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するように配慮した建築デザインや緑化等を検討します。</p> <p>また、音に関しては、『3.4.2スポーツゾーン（2）計画概要 1）スタジアム』において、「スタジアムから発生する音に関して、兵庫県条例に定める騒音の規制基準、公園敷地境界で昼間55デシベル以下を遵守するため、観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策を実施」を明記したほか、音響設備は、周辺環境に配慮し、指向性に優れたスピーカーの導入や機器の配置場所を工夫するなどを検討します。</p> <p>なお、光に関しては、照明設備は、周辺環境への光漏れに配慮し、フィールド内だけを集中して照らせる指向性に優れた機器の導入や配置場所の工夫などを検討します。『3.4.2スポーツゾーン（3）今後の検討に向けて 1）スタジアム』において、スタジアム照明イメージを掲載しました。</p>

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>駐車場は園児と学生の団体用のバスに限定し、自家用車は対象外とすべき。</p> <p>王子動物園には毎年、春、秋の遠足のシーズンにたくさんの学校(養護学校を含む)や団体が大型バスで来ています。20台以上の大型バスを止めることができる駐車場があるおかげです。新しい計画では駐車場が大変小さく、立体へと変わっています。個人での来園は公共交通機関をもっと使うようになればいいと思うのですが、学校などの団体に関しては駐車場が小さくなりとおめることができなくなれば、来られなくなってしまうと思います。幼稚園や小学生、障害のある子どもたちを公共交通機関で連れて行くことは難しいですし、事故などの危険もあります。これからも遠足や団体を誘致するのであれば、一般の駐車場を減らしても大型バスが何台も停められる駐車場を確保する必要があると思います。</p> <p>これからの計画が市民にとって必要なものが補われ、誰もが幸せになれる計画になることを願います。</p> <p>駐車台数500台とあるが、400台で十分ではないか。4階と3階をそれぞれ3階と2階にする。あるいは地下階を作り、地上を3階2階にして500台とする。現在のサブグラウンドからの眺望は素晴らしいので、駐車場屋上に休憩施設(眺望施設)を設けて欲しい。</p>	<p>現在の王子公園駐車場は、ゴールデンウィークや春・秋の行楽シーズンなどの繁忙期には、駐車場の入庫待ちが発生しており、また、動物園来園者には家族連れが多く、来園者の約半数の交通手段が自動車であることから、再整備後も駐車場は一定必要であると考えています。</p> <p>新たに整備する駐車場の駐車台数は、繁忙期にあわせて最大数の駐車台数を確保するのではなく、ソフト施策を組み合わせることにより、景観へ配慮して立体駐車場の高さをできるだけ抑えながら、コストも考慮した最適な規模として設定しています。</p> <p>駐車場の屋上利用について、北棟は駐車台数を確保するため駐車場として利用し、南棟にはテニスコートを整備する予定です。</p> <p>なお、駐車場の面積については、『3. 4. 3駐車場(2)計画概要 1)立体駐車場』において、北棟「建築面積約2,000m²」、南棟「建築面積約3,000m²」を、駐車場の高さについては、『(3)今後の検討に向けて』において、「駐車場の高さは、現在の補助競技場の地盤面から15m程度、屋上テニスコートの防球ネットの高さは10m程度を想定しています」を明記しました。</p> <p>また、平日は小学校の遠足など大型バスでの来園者も多いため、南棟1階フロアには、大型バスの駐車スペースを約20台分確保します。</p> <p>屋外にも大型バスが待機・駐車できるスペースとして、公園北側にスペース(大型バス5台程度)を設けており、今後も引き続き使用することを考えています。</p> <p>なお、屋外の大型バス待機所については、『3. 4. 3駐車場(2)計画概要 1)立体駐車場』において、「立体駐車場以外にも屋外に大型バス5台程度の待機場所を確保」を明記しました。</p>
2	<p>立体駐車場を建てるとのことですが、住宅地に高い建物は不釣り合いで、外観を損ねます。周囲の道路は片側1車線など、混雑が予想され、住人の生活の邪魔になるのが予想されます。</p> <p>立体駐車場も屋上にテニスコートを作るため高層にするなら、見た目も悪いし景観を損なうだけです。</p> <p>立体駐車場をサブグラウンドに建設されると、近隣住民からすれば山並みも海も見渡せず景観が損なわれます。北棟を4階と高層階にするのではなく、南棟の屋上も駐車場にするべきです。北棟も3階にしてほしい。(3階でも高層です)</p> <p>六甲の景観を損ねる駐車場はやめる。</p> <p>緑豊かな公園守れ、ガレージで六甲・摩耶山が見えなくなる。</p> <p>立体駐車場は景観上からも作る必要はない。</p>	<p>王子公園周辺には、六甲山系の美しい山並みを背景とした景観が広がっており、再整備の基本的な方向性にも挙げているように、六甲山の山並みと調和した良好な景観を維持・創出していきたいと考えています。</p> <p>そのため、立体駐車場の整備においては、建物本体について周辺と調和したデザインや壁面緑化を実施するなど、公園全体の景観が損なわれないよう配慮します。また、既存樹の保全に努めるとともに、周辺に植樹を行います。</p> <p>なお、地下に駐車場を整備することは、立体駐車場と比べて整備費用や整備後の維持管理費(日常管理・設備更新)が大きくなることから、比較的安価な立体駐車場を整備したいと考えています。</p> <p>テニスコートについては、ポートアイランドに6面整備するとともに、王子公園近隣の方や部活動の利活用に配慮し、立体駐車場の屋上にハードコート2面を整備します。</p>

	<p>市のプランにある立体駐車場（4階建て、一部屋上にテニスコート併設）や新スタジアム（結構な高さが予想される）によって、六甲山・摩耶山の山並みが下から見えなくなってしまいます。</p>	
	<p>駐車場を整備するよりも、シャトルバスなどでJR灘、JR摩耶新幹線神戸などから来園できるのが良い。交通事故のリスクも下がる。車の乗り入れは少ないにかぎる。三宮再開発に臨む久元喜造市長はそう語っている。</p> <p>大型バスの乗り入れは大歓迎である。平日・休日を問わず原案の倍40台程度枠をとっていただきたい。全国からの来訪者を望む阪神甲子園球場には駐車場がない。数万の人々が訪れるのにである。</p>	
	<p>駐車場や建物は摩耶山が見えるくらいの低さにしてほしいです。建物に囲まれて狭苦しい雰囲気になるのは嫌です。</p>	
	<p>北東部、現補助競技場にあたる地上部分に作られる立体駐車場施設は、いくら壁面緑化などの意匠的工夫を施したところで大変大きな人工的塊であり、公園側からは背後の六甲山系の美しい山並みを遮ると同時に、周辺住民の海、神戸港への眺望を阻害する。</p>	
	<p>高さのある駐車場ができることで、景色が遮られるのが困っています。</p> <p>また、小グラウンドで自由に走っている人達をよく目にしていたので、駐車場を地下に作って、小さな自由に使えるグラウンドを作れませんか。</p>	
	<p>ただ、最低限叶うのであれば地上の駐車場は廃止しないで下さい。不足するのであれば、地下に駐車場を新設してください。</p>	
3	<p>駐車場を公園内奥深くに配置することにより、来園者と車との接触機会が増え、その結果交通事故の可能性が高まるだけではなく、アクセス園路に割り当てなければならない敷地が発生し土地の有効利用度が低下する。SDGsの理念にも反する。また、公園北東からの出庫となるため、学校区域への左折禁止は必須である。駐車場は、基幹道路に面するところに計画することが肝要である。</p>	<p>再整備にあたっては、現在、平面駐車場として利用している空間を、緑の広場やシンボルプロムナードなど、人のための空間を創出するため、土地の有効活用の観点から、現在の補助競技場の位置に、駐車場機能を集約して立体化し、立体駐車場を整備する計画としています。</p> <p>そのため、公園の南東側から立体駐車場に至るアクセス園路を整備します。アクセス園路については、車止め等によって歩車分離をはかる安全対策や車のスピードを減速させるよう、路面の一部を盛り上げるハンプ構造とするなど安全対策を行います。</p> <p>また、幅員構成としては、ゆとりある歩行者の空間を確保するとともに、車道は緊急車両等が追い抜きできる幅員を確保します。</p> <p>また、駐車場の出庫は公園北東からとなるため、今後、交通解析を実施し、周辺交通への影響を確認します。</p> <p>なお、駐車場アクセス園路については、『3. 4. 3 駐車場（2）計画概要 2）園内・周辺道路』において、「歩車分離を図り歩行者の安全を確保」を明記しました。</p>
	<p>基本計画素案に示された進入路は、遊歩道を削って作られ、なおかつ遊歩道との交差する箇所の安全策も示されていません。歩行者の安全を最優先の課題と考えてはおられない整備のあり方を見直していただきたいです。</p>	
	<p>駐車場への進入路の車の動線と駅からの歩行者の同線を分離して欲しい。</p> <p>三宮周辺ではかなりの距離の高架歩道を建設しているのに、王子公園の動物園前で整備されない理由がわからない。</p> <p>阪急西宮のように、ベビーカーや車椅子が安心して通行できるよう、高架歩道にして、歩行者と車の分離をして欲しい。</p>	
	<p>動物園のエントランスと駐車場の配置は今より不便になりませんか。現状障害者優先の駐車場はエントランスの最寄りにありますが、立駐からだかなりの距離がありませんか。歩行が困難な障害者にとっては坂道を下るのは危険を伴います。バスからエントランスの距離も今よりかなり遠いと感じています。バスの利用者には幼稚園児も多く、エントランスまでが遠いのは難点です。市バスのように、観光バスの乗降場所は山手幹線沿いに設定し、最短距離でエントランスに入れる工夫が欲しいです。バスや車の来場者が不便になる再整備なんて、めちゃくちゃだと思います。</p>	
	<p>駐車場の出口の渋滞緩和の具体的な対策の提示や、出庫動線の検証をお願いします。計画では、円滑な入庫動線の確保はうたっていますが、出口に関しては納得のいく回答はまだという認識です。北側や東側は車幅の狭くない一車線の生活道路です。出庫が多いと渋滞ができるのは明らかです。特に観光バスだと1校で1台ということは少なく、複数台が連なって出庫します。大型バスの出庫の動線を検証してください。道路に出る右左折時に反対車線をとめないで回旋できないのではないのでしょうか。また、出たあと南下する道に曲がれますか。『警備員を配置するから心配ない』という化石的な発想は捨てていただいて、誰もがストレスなくスムーズに車が渋滞しないことを説明してください。出口が北側や東側でバスがストレスなく走行できるのでしょうか。</p>	

	<p>立体駐車場の進入路に関しても、遊歩道と進入路が交差する場所での歩行者の安全を確保できるのか。</p> <p>進入路はおそらく渋滞を前提だろうし、その道中で救急車が必要な状態になったとき、救急車が進入できるのか、大型バスも立体駐車場に誘導するのであれば、進入路は湾曲しているため、大型バスの走行を前提にすると、ゆとりのある歩道を確保できないのではないか。</p> <p>駐車場アクセス遠路の車道や歩道はそれぞれ幅何メートル確保されているのでしょうか。ゆとりある歩行者ゾーンを確保しているのか、明確にして欲しいです。現在は周回路でのランニングや自転車やベビーカーがストレスなく往来できる幅があると思いますが、車道を確保すると歩道が1メートルもないような想定をしていないか、とても心配です。</p>	
4	<p>現在の駐車場は混雑時にはサブグラウンドを臨時駐車場として、640台まで駐車できます。計画の台数では混雑時の緩和には役に立ちません。また休日にバスが駐車できないのも、観光スポットとしてはいかがなものかと。</p> <p>道路拡張の都市計画はないのでしょうか。駐車場進入路の渋滞対策として、阪急王子公園北側の生活道路拡張を市民意見交換会の質疑応答で伺いましたが、計画には無いのは何故でしょうか。住民が安心して賛同できる計画ではないです。</p> <p>地元住民が納得していない懸案事項に対して、対応します、という具体性のない回答ではなく、具体的な対応策を計画で明らかにしてください。</p> <p>入口出口の位置が悪いので、現在以上の渋滞が発生し地域の生活に悪影響がでる。</p> <p>阪急王子公園駅から動物園への動線と 駐車場導入口入口が交差するので危険。</p> <p>立体駐車場への進入時の進入待ちをどこまで認めるのか、現状の92系統のバス通り方面まで想定しているのでしょうか。</p> <p>また、102系統のバス停が駐車場待ちの列の中にあります。102系統のバス停を進入路の東側に移設しないと、102系統のバスの運行に支障をきたす恐れがあることを認識されていますか。</p> <p>同様に、立体駐車場から出る車の流れも渋滞緩和対策を十分にとってもらわないと、野崎線が渋滞で動かないと、やはり102系統の運行にひびきます。</p> <p>駐車料金は大幅値上げ、ファンドを動物福祉、園内樹木メンテに活用して欲しい。公共交通機関の利用促進にもつながる。</p> <p>景観劣化、交通渋滞による事故発生、スクールゾーンへの悪影響、排ガスの問題など。そもそも駅前に駐車場は不用。王子公園へは阪急電車など公共交通機関を利用して下さい。</p> <p>最も気掛かりなのは来場者のための駐車場施設です。素案の中に「市道阪急沿線の再整備」とあります。これは車道の拡張を意味していると解釈していますが、その通りだとしてもクルマの入庫に伴う渋滞、そして出庫のあとの渋滞が心配です。</p> <p>阪急王子公園駅北側の片側1車線道路は、近隣住民にとり山手幹線につながる貴重な道路です。この道が渋滞すると仕方なく王子公園を反時計回りに迂回して、山手幹線に出なくてはなりません。ここは生活道路なんです。</p> <p>しかも、大学を誘致すると多くの学生で溢れて事故の危険が増し、今まで以上に緊張しながらの運転を強いられます。学生が交通ルールを守るのは当然ですが、人の飽和状態がいっぱいになるとどうしても歩道を溢れて車道にはみ出してしまいます。理屈では分かっていますが、現実にはうまく行かないことが多々あります。今回の市の決定が、地元住民の生活には可能な限り影響ない配慮を希望します。</p> <p>王子公園の再整備より歩道の整備をしてほしい。</p>	<p>新たに整備する立体駐車場の台数は、繁忙期にあわせた最大数の駐車台数を確保するのではなく、ソフト施策を組み合わせることにより、景観にも配慮するため高さをできるだけ抑えながら、コスト面にも考慮した最適な規模として設定しています。</p> <p>また、王子公園は駅から近く、公共交通の利便性が高いことから、現在実施している三宮駐車場や花隈駐車場のパーク・アンド・ライド利用に加えて、公共交通機関の利用促進施策などのソフト施策を推進します。</p> <p>さらに、駐車場待ちの車列による周辺交通への影響を抑えるためのマネジメント方法について、検討を行っていきます。</p> <p>王子公園の南側にある市道阪急沿線は、美装化や市営駐輪場の再編を行うなど、阪急王子公園駅から王子公園へのアクセス動線として再整備します。</p> <p>また、道路から駐車場アクセス園路に左折する際、一般の交通に影響が出ないように、歩道の歩行者の通行を待たためのスペースとして、車道部の一部拡幅を検討しています。</p> <p>なお、市道阪急沿線の一部拡幅については、『3.4.3 駐車場(2) 計画概要 2) 園内・周辺道路』において、「車道部の一部拡幅による円滑な入庫動線の確保」を明記しました。</p>

意見 番号	意見	市の考え方
1	<p>南海トラフ地震では最大 34mの津波が想定され、兵庫県でも最大震度7が見込まれるとのことです。6月に作成された神戸市地域防災計画によると、六甲山南麓の東灘区・灘区・中央区・兵庫区・長田区の約70万人を対象とする陸の広域防災拠点は、灘区の王子陸上競技場(海拔48m)・中央区のなぎさ公園(海拔0m)兵庫区の御崎公園(海拔2m)の3箇所となっており、津波に対応できるのは王子陸上競技場が唯一の広域防災拠点でしょう。</p> <p>阪神淡路大震災の時に自衛隊の大型ヘリが着陸できたのは、王子陸上競技場・しあわせの村・神戸空港の3箇所でした。地震で橋・トンネル・道路の損傷が激しければ、迅速に機能できるのは王子陸上競技場だけかも知れません。</p> <p>防災の機能を強化すると書かれていますが、サブグラウンド等がなくなることで、避難したり救護活動する場所が減り、住民の避難や救援に支障が出てくると思います。</p> <p>天災に対する防災拠点、物資集積所、避難所等としても重要で必須な場所です。王子の広い空間を是非残して下さい。</p> <p>スタジアム、サブグラウンドは防災機能を持った大切な場所です。防災拠点、物資集積基地、避難所、ヘリの離発着場など市民を守る機能を切れ目なく保持すべきです。サブグラウンドのような平坦空地は残すべきです。</p> <p>防災拠点の機能が減少する。ヘリコプターが降りるだけなら周辺の学校で間に合っている。重要なのは重機や物資、テントを置ける広い空間。それが失われる。資料にある防災機能強化はサブグラウンド等を維持したまま行えるし、それなら防災機能は実際強化される。防災拠点としての機能を維持するために、サブグラウンドとスタジアムに大型車両が出入りできる道も確保すべき。</p> <p>神戸市の素案では、防災拠点として新スタジアムを緊急ヘリポートとして位置づけています。それは不可能です。阪神・淡路大震災の教訓を忘れたのでしょうか。住居から一定離れている現スタジアムでさえヘリコプターの騒音被害がひどく、近隣住民から苦情が殺到し1か月足らずで中止されました。これが住居や老人福祉施設、教育施設に隣接する北側に新スタジアムを建設するなど論外です。新スタジアムに災害時のヘリポートとなることはありえません。日常的な騒音公害のみならず、災害時のヘリポートとして利用はできないことをしっかり踏まえるべきです。</p> <p>防災拠点としての機能も心配です。 仮設住宅の設置や大規模火災などの避難場所として機能できますか。</p>	<p>王子公園は、阪神・淡路大震災の際には、広域避難場所として被災住民を収容するとともに、救援活動の拠点として自衛隊の駐屯基地や緊急ヘリポートとして利用されました。また、動物科学資料館の動物園ホールは遺体安置所として、自衛隊の駐屯地が移転した後の補助球技場には、仮設住宅が建設されるなど、重要な役割を果たしており、王子公園の防災機能の重要性については十分認識しています。</p> <p>王子公園は本市の地域防災計画において、陸の広域防災拠点として位置付けられています。</p> <p>現在の王子公園には、緊急避難場所、緊急時のヘリコプター離発着場や物資集積配送拠点、自衛隊等の救援活動拠点などの役割があり、再整備後においても、緊急車両の動線確保や防災施設の導入などにより、同様の機能を確保・強化していく予定です。</p> <p>再整備後のスタジアムは、大型車両も想定した緊急車両の通行が可能なシンボルプロムナードに接しており、大型車両の出入口も確保する予定です。</p> <p>また、仮設住宅については、災害の規模や状況に応じて、民間賃貸住宅を借り上げて供給することも含めて、建設場所や戸数を判断します。</p> <p>一方で、災害時のヘリコプターの離発着による騒音・振動なども周辺へ大きな影響を与えるということは認識しており、災害時の運用について、今後検討していきます。</p> <p>さらに、工事期間中の防災機能の継続については、工事進捗状況や工事の段階に応じて不足する機能を十分補えるよう、関係部局と調整しながら、機能を確保します。</p> <p>なお、緊急車両の動線については、『3. 5広域防災拠点の機能強化(2)計画概要』において、「緊急車両の動線の確保」を明記しました。</p>

意見 番号	意 見	市の考え方
1	<p>王子公園は神戸市の文教地区の中核をなすもので、昔から神戸市民に親しまれた施設が充実している。市民プール廃止や陸上競技施設の縮減が計画され、その分私立大学に土地を売り渡そうとする事は間違っている。</p> <p>神戸市民全体の利益に適っていない計画は白紙とし、古い設備は改修して活用すべきです。</p> <p>都心近くへの大学誘致に関しては若年層や交流人口の増加や産学連携の容易さの点で非常に重要であり神戸や周辺地域の将来のために強く賛成する。</p> <p>王子公園内に「大学ゾーン」はいらない。神戸市民の公園なので、「大学ゾーン」をなくし、他の施設を充実すべき。「大学」はポートアイランドに作ればいい。</p> <p>プール・相撲場・テニスコートなど今ある施設は減らすことなく、王子公園内に維持・存続・整備してください。</p> <p>全体として賛成です。 特にプールを廃したのが良かった、年間で2か月しか稼働しない施設は不要。</p> <p>王子公園の再整備計画大賛成です。綺麗に生まれ変わるのを心待ちにしています！エリア全体、神戸市全体の最適化の視点から、早急に計画が進められるようお願いします。</p>	<p>再整備にあたっては、公園内の施設を適切に維持更新し、将来世代へ確実に継承するため、今ある施設をそのまま更新するのではなく、王子公園エリアの新たな価値を創出することが不可欠です。</p> <p>大学は、教育・研究機関としての機能に加え、若年層人口の受け皿として、転入や定着促進、昼間人口の増加にも大きく寄与し、地域の課題解決、地域経済の基盤強化など、地域社会においても重要な役割を果たすことから、大学誘致は新たな価値を創出するための最も有力な施策であると考えています。</p> <p>少子化が進む中、学生が確保しやすい大都市中心部への立地志向が高まっており、大学の「都心回帰」が進んでいます。王子公園は、阪神間の山麓部の交通利便性が高い文教エリアに立地しており、文教都市・神戸としての地位を高め、都市間競争に打ち勝つためにも、大学誘致に最適なエリアであると考えています。</p> <p>また、誰もが憩い、くつろげる一般に開放された空間を拡大することやゾーン間の物理的つながり、視覚的な拡がり確保することを重視し、公園全体の一体感の醸成と回遊性の向上をはかるとともに、公園内の施設については、利用状況や全市的な配置状況などを踏まえ、園内外で再整備、代替・機能確保、園外施設の充実をはかるなど、出来る限り従前施設の機能を確認します。</p> <p>このような考え方のもと、令和4年12月に「王子公園再整備基本方針」と「王子動物園リニューアル基本構想」を策定し、「新たな「原田の森」の創造」「学術・文化拠点のシンボルの創出」「王子動物園の魅力向上」「公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上」「広域防災拠点の機能強化」といった5つの基本目標のほか、ゾーニング、各施設の方向性等を定めました。この基本方針に基づきこの度お示しした基本計画の検討を進めてきたところです。</p>
2	<p>旭山動物園は昭和42年当時のお金で2億8千万で開園したことを考えると、ただ綺麗にするだけ、施設を廃止するだけなら、300億円はあまりにも法外なので、もっと予算は削減すべき。</p>	<p>基本計画（素案）でお示しした概算事業費は、現時点で想定される事業費であり、今後、関係機関との協議や物価水準の変動等により変更が生じる可能性があります。</p> <p>事業費については、施設設計等を進めていく中で精査を行い、削減に努めていきます。</p>
3	<p>市民にもっと情報を知らせるべき。広報の特別号を。 市民・専門家の意見をもっと聞くべき（新長田の再開発のように失敗しないためにも）。</p> <p>神戸市広報のミニニュースには再整備のイメージしか説明されておらず、市民が知りたい肝心なことが全く知らされないで市民意見を求めるのは間違っている。動物園の飼育動物を減らしたいこと、動物園はゾーン別にするために原型をとどめないくらい壊すこと、旧ハンター邸の移転、プールや相撲場の廃止やテニスコートの縮小、駐車場の渋滞対策の具体的な解決策が提示されていないこと等、知らせるべき事を包み隠さず公表すべきである。</p>	<p>基本計画（案）では、再整備における「5つの基本目標」の実現に向けて、整備の方向性として「理念・コンセプト等」を整理したうえで、各施設の「計画概要」や「今後の計画に向けて」検討を深めていく課題や内容をお示ししています。</p> <p>これにより、再整備で生まれ変わる新たな王子公園の基本的な将来像とともに、再整備に伴う周辺環境への影響などについて具体的なイメージ等を整理しています。あわせて、市ホームページに検討経緯やこれまでにい</p>

	<p>肝心な事をしらせないため、いつまでも不信感がなくなる。</p>	<p>ただいたご意見、FAQ（よくある質問）等を掲載しているほか、ミニニュースを発行し全戸配布するなど、情報発信に努めてきました。なお、ミニニュースは紙面に限りがあることから、市ホームページをご案内するQRコードを必ず記載しています。</p> <p>今後も、施設設計や施工計画の検討等の進捗に応じて、市ホームページやミニニュースなど様々な手法や媒体を通じ、再整備に関する情報を発信していきます。</p>
4	<p>都市公園法では都市公園の全部も、一部も廃止してはならない。都市公園を廃止できるのは「公益上特別の必要がある場合」で、しかも「客観性を確保しつつ慎重に判断し地域のニーズを踏まえること」と都市公園法運用指針にある。</p> <p>今回出された「基本計画（素案）」は、「客観性を確保」して、「慎重に判断した」と言えるのか。憩いとレクリエーション、景観の向上、環境の改善、災害時の避難場所など様々な役割を都市の中で求められている重要な施設であり、だからこそ都市公園法によりバックアップされている。住民との議論を尽くした上での合意形成が必要であり、これがこの「客観性の確保」「慎重に判断」地域のニーズ」の中身である。</p> <p>公益とは、「みんなのためになること」「子どもたちを含む住民、市民が幸せになること」をさす。すなわち王子公園そのものが公益である。公益上特別必要のない大学を誘致することは明らかに都市公園法及び都市公園運用指針に違反している。神戸市は美辞麗句を並べ立て、「大学の公益性」なるものを押し付けているが、住民の思いを踏みにじる強引な大学誘致は都市公園法の精神からも絶対に許されることではない。</p> <p>大学誘致に関して、都市公園を廃止する理由「大学の公益性」は、全く「公益上特別の必要」にはならない。きちんとしたデータを上げて納得いく説明ができるなら、まずそれを示してほしい。</p> <p>優秀な学生とは？ どのようにしてそのような学生を得るのか？</p> <p>地元企業との連携とは？すでに〇〇大学、〇〇大学などがあるが、これより良い連携が可能な理由はあるか？</p> <p>経済効果の算定はどのようなデータ、理論によるのか？</p> <p>開放施設（レストラン、図書館）の規模は？4000人の学生以外に提供できるという見込みは？従業員の給与、労働時間、本や雑誌の購入金額の財源は？大学が本当に賄えるのか</p> <p>校舎のスペースと4000人規模の学生の居場所を具体的に示すべき。その上で地元住民が使用できる場所がキャンパスに確保できるのか？</p> <p>“どこからでも入れる公園のようなキャンパス”と警備、安全性（学生、住民の双方にとって）をどう両立するのか？そのような実例があるなら示してほしい。</p> <p>公園の廃止なら、公園法に則れば代替地が必要なはず。もし大学を計画通り現スタジアムの場所に誘致するなら、新スタジアムはその代替地に、広域避難場所にふさわしく建設すべきと思う。それまで大学誘致は凍結し、プール、スタジアムなどの補修をし、綿密な計画を立て直してから取り掛かるべき。</p> <p>神戸市は公園法に基づく代替用地を示していません。</p> <p>都市公園法は「みだりに公園の区域・・・廃止してはならない」としている。法律には例外はあるとしても、例外を法律の主旨の上においてはならない。神戸市の言う公益は市民を犠牲にしたもので、それは公益ではない。</p>	<p>再整備においては、市民や議会からのご意見をふまえ、当初素案を見直すとともに、市民との意見交換会を開催するなど、様々な手法、機会を通じて市民の皆様のご意見を伺いながら手続きを進めており、大学公募においても、「卒業生の定着の取り組み」や「地域課題の解決」、「学び直しの機会の提供」、「景観への配慮」等を条件としています。</p> <p>前述のとおり、大学からの提案では、約4,000人の学生と約200人の教職員が通勤・通学する予定であり、若年定住・交流人口の増加や地域経済に大きな効果が期待できます。大学が立地することによる経済効果は、本市が試算した結果からも明らかとなっています。</p> <p>教育面においては、学際的な学びを重視し、現代の複雑な課題に対応できる新たな価値を生み出す人材の育成や、産官学民の連携の取り組みの展開、学びを通じた地域や人々のつながりを創出するとされています。</p> <p>また、王子キャンパスはあらゆる世代や属性の人々が日々気軽に訪問できる場になることをめざすとされており、グラウンドレベルは全て一般開放され、レストランやカフェ、図書館やホール、アリーナ、チャペルなど複数の大学施設が一般開放されるほか、オープンスペースの確保や、本市との連携のもと、屋外・屋内避難場所の確保等、広域防災拠点としての機能の向上に資する提案をいただいています。</p> <p>加えて、社会のあらゆる人々が学びの楽しさに目覚めるリカレントラーニングパークの形成をめざし、多様なニーズに応じたリカレント・リスキリング教育プログラムを提供することで、神戸のまちと人の未来創造を支援する提案をいただいています。</p> <p>都市公園法第16条において「都市公園の保存」に関する規定があり、この度の大学誘致に伴う公園の一部廃止については、都市公園法第16条第2号の「廃止される都市公園に代わるべき都市公園が設置される場合」ではなく、同条第1号による「公益上特別の必要がある場合」に該当するものと考えています。しかし、従前の都市公園としての効用を確保することは必要であると考えており、再整備に合わせて効用を確保することはもとより、一部の施設（テニスコート）を移設することも検討しています。</p> <p>公園面積は一部減少しますが、機能の集約や施設の工夫によりリノベーションをすることで、総合公園として必要な効用は十分確保できると考えています。</p>
5	<p>都市公園条例における建ぺい率の規制について詳細を公表すべき。</p> <p>現在の計画を見ても、建ぺい率をどうするつもりなのか明示されていない。</p>	<p>都市公園は、主として屋外におけるレクリエーションの場であり、また災害時における避難地としても利用されるものであることから、できる限</p>

	<p>大学ゾーンが都市公園でなくなることによって、王子公園全体の面積が狭くなり、それにより自動的に動物園部分の建ぺい率が上がってしまうはずである。</p> <p>調整種の動物を手放すのは、法定の上限となる建ぺい率をクリアできなくなるからなのか。</p> <p>動物福祉をうたうのであれば、獣舎部分の広さはもっと広げるべきだが、どのように都市公園法の規制をクリアするつもりなのか明示してほしい。</p> <p>建ぺい率を大幅に上げる必要が出てくるはずが、神戸市として条例改正を行うつもりがあるのか、はっきりしてほしい。</p>	<p>りオープンスペースを確保する必要があります。このため、都市公園内に公園施設として設けられる建築物の建築面積に規制が設けられています。</p> <p>ただし、特別の場合においては政令で定める範囲を参酌して地方公共団体が自ら条例を定めることができるとされています。</p> <p>再整備では公園面積が一部減少しますが、今後詳細に設計を行う段階で必要な建ぺい率を明らかにし、条例改正が必要な場合は都市公園法に基づき手続きを行います。</p>
6	<p>旧ハンター邸の北野移築に関しては賛成。元の北野にあった方が、より観光客に知られ、神戸の新名所になると思う。正直今の場所では神戸以外の人にはかなり無名になってしまっている。ただ貴重な文化財ですから、雑に扱わないで欲しい。そして北野の移築先を熟慮しなければ、結局無名のままになり、いずれ廃墟になる可能性もある。そのため、移築先としては旧トーセン邸の前の空き地が良いのではないかと。神戸市がこの土地と旧トーセン邸を買い取り、これと一緒に観光施設・文化財として一体的に整備してほしい。ここなら風見鶏の館も近いので、よりたくさんの方に見てもらえると思う。またここには旧ハンター邸のものと思われる門柱と塀が残っているため、これも保護・活用してほしい。ただ、観光地の真ん中のため、防火防犯体制もしっかり整えてほしい。</p> <p>ハンター住宅の北野への移設は車いすなどで移動が不自由な人が文化財に触れる機会を奪うものです。また十分な広さがあるとは思えないところへの移設は、山口邸、ハンター住宅双方の価値を損なうものです。神戸市の文化度が疑われます。</p>	<p>「旧ハンター住宅」の北野地区への移築は、耐震工事に際して今後の保全をはかるために、重要文化財のさらなる活用をめざすものです。北野地区への里帰りに際しては防火防犯対策をはじめ、来館者の観覧に配慮しながら、今まで以上に多くの方に親しまれる安全安心な施設とするともに、北野地区全体の活性化に寄与することをめざします。</p>
7	<p>旧ハンター邸が耐震補強のうえ、北野町に里帰りするという報道がありました。個人的に追加案件として、さらに王子公園西端にある神戸文学館（旧関学チャペル）の移転を提案します。</p> <p>場所は東側、大学ゾーン内か、緑の広場内。</p> <p>シンボルツリーよりこの関学由来のチャペルの方が関学側に移転すれば学部シンボルとなるし、区民、市民の原田の森、王子公園のアイコンとして最適であると確信します。</p>	<p>神戸文学館は、1904年に関西学院大学院のチャペルとして建築されました。国登録有形文化財で、灘百選にも選ばれる等、地域の方々に長らく親しまれており、現在のところ移転は考えていません。</p>
8	<p>大学誘致をやめ、公園全体の配置を見直せば、動物園の敷地を拡張でき、飼育動物を減らさずに済むのではないかと。</p> <p>敷地が足りないなら大学誘致をやめてください。動物園はあちこちに作る事ができない貴重な場所です。もっと動物園の存在意義に気づいてください。少子化で将来余事が分かっている大学は必要ないと思います。せっかくある王子公園の敷地を奪ってまで大学を作らないでください。むしろ動物の種類を増やして動物園を活性化させてください。</p>	<p>再整備にあたっては、誰もが憩い、くつろげる一般に開放された空間を拡大すること、ゾーン間の物理的つながりと視覚的な繋がりを確保することを重視し、公園全体の一体感の醸成と回遊性の向上をはかり、基本方針においてゾーニングを定めました。</p> <p>動物園においては、位置を大きく変更することなく、現在と同程度の敷地面積を確保することとし、新たな展示方法等の導入など魅力の向上や、動物福祉に配慮した施設の更新を行っていきます。</p> <p>新たなゾーニングにおける動物園の面積で不足があるとは考えていませんが、(公社)日本動物園水族館協会が策定した「適正施設ガイドライン」を参考に、立体的利用など施設配置の工夫を凝らし、動物福祉に配慮した快適な飼育環境を創出していきます。</p>

意見等を反映させた箇所

【全体編】

3. 1 新たな「原田の森」の創造 【P2~3】

(2) 計画概要

- ・適切な照明配置やフットライトを活用した、明るく安全な空間整備とすることを明記
- ・桜を含む樹木について現状以上の本数を確保することを明記
- ・ユニバーサルな視点を取り入れた施設整備を行うことを明記

変更前	変更後
	適切な照明配置やフットライトを活用した、明るく安全な空間整備
	桜を含む樹木について、新たな植樹などにより現状以上の本数を確保
	ユニバーサルな視点を取り入れた施設整備 (例：園地のバリアフリー化、インクルーシブ遊具、バリアフリースイレ)

(3) 今後の検討に向けて

- ・公園周辺の既存樹木について保存に努めることを明記

変更前	変更後
	防火樹林帯としても機能する公園周囲の既存樹木について、保存に努めます。

3. 3 王子動物園の魅力向上 【P6】

(2) 計画概要

- ・動物収集計画（コレクションプラン）の調整種について、終生飼育することを明記
- ・動物収集計画（コレクションプラン）の新規導入方針について、今後希少種のみ新規導入するという誤解を与えかねないため、“等”を明記
- ・動物収集計画（コレクションプラン）の該当種について、該当種数及び種名を明記

変更前	変更後
調整種：繁殖を行わない。もしくは譲渡を促進	調整種：繁殖を行わない（終生飼育）。もしくは譲渡を促進
域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進	域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）等を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進
50～60種	56種

<p>ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソ等</p>	<p>ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソ、<u>アビシニアコロブス</u>、<u>カピバラ</u>、<u>アフリカタテガミヤマアラシ</u>、<u>ワオキツネザル</u>、<u>ニッポンツキノワグマ</u>、<u>ベネットアカクビワラビー</u>、<u>フサオマキザル</u>、<u>ブラッサグエノン</u>、<u>ビントロング</u>、<u>ヨザル</u>、<u>コモンマーモセット</u>、<u>エジプトルーセットオオコウモリ</u>、<u>ボリビアリスザル</u>、<u>ボブキャット</u>、<u>シベリアオオヤマネコ</u>、<u>ショウガラゴ</u>、<u>シタツンガ</u>、<u>ヤギ</u>、<u>カイウサギ</u>、<u>モルモット</u>、<u>ロバ</u>、<u>ヒツジ</u>、<u>ラマ</u>、<u>タンチョウ</u>、<u>マナヅル</u>、<u>カンムリシロムク</u>、<u>アカコンゴウインコ</u>、<u>ニジキジ</u>、<u>コバタン</u>、<u>ルリコンゴウインコ</u>、<u>オオハナインコ</u>、<u>シロムネオオハシ</u>、<u>シロフクロウ</u>、<u>ホシハジロ</u>、<u>インドクジャク</u>、<u>ウミネコ</u>、<u>ユリカモメ</u>、<u>ホンドフクロウ</u>、<u>オシドリ</u>、<u>ベニコ</u><u>ンゴウインコ</u>、<u>キエリボウシインコ</u>、<u>オジロワシ</u>、<u>ビルマニシキヘビ</u>、<u>ケヅメリクガメ</u>、<u>ニホンイシガメ</u>、<u>グリーンイグアナ</u>、<u>キタイ</u><u>ンドハコスッポン</u>、<u>インドホシガメ</u></p>
--	---

<p>50～60種</p> <p>ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ等</p>	<p>46種</p> <p>ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ、<u>チベットヒグマ、インドタテガミヤマアラシ、キンカジュウ、コモンリスザル、アカハナグマ、ウマ（カカバ）、キビタイボウシインコ、パナマボウシインコ、ニシムラサキエボシドリ、カンムリヅル、コガモ、ハッカシ、アヒル、ガチョウ、ニワトリ、ホロホロチョウ、カワウ、ゴイサギ、シユバシコウ、オナガガモ、カモ雑種、コブハクチョウ、アカツクシガモ、セキセイインコ、フラミンゴ雑種、オオダルマインコ、ヒョウモンガメ、ニシキマゲクビガメ、アカアシガメ、マレーハコガメ、アンボイナハコガメ、セマルハコガメ、ミナミイシガメ、ヒラセガメ、クサガメ、ホオジロクロガメ、トウブハコガメ、ノコヘリマルガメ、オルナータハコガメ</u></p>
<p>130種程度</p>	<p>127種</p>

3. 4 公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上 【P.9~17】

3.4.1 緑の広場・シンボルプロムナード

(2) 計画概要

- ・親水空間や遊具等について、子どもの遊び空間として設置することを明記
- ・公園に必要な施設・機能を適切に配置することを明記

変更前	変更後
親水空間や遊具等の設置	<u>子どもの遊び空間として親水空間や遊具等の設置</u>
	<u>公園に必要な施設・機能（照明・トイレ等）の適切な配置</u>

(3) 今後の検討に向けて

- ・舗装材について、自然を感じられるものとするを明記

変更前	変更後
異常高温対策に資する遮熱性を高めた舗装材（現地発生土・木を活かした自然土系舗装やウッドチップ舗装等）、クールスポットとしてミスト等の導入を検討します。	異常高温対策に資する遮熱性を高めた <u>自然を感じられる</u> 舗装材（現地発生土・木を活かした自然土系舗装やウッドチップ舗装等）、クールスポットとしてミスト等の導入を検討します。

3.4.2 スポーツゾーン

(2) 計画概要

- ・スタジアムの防音対策について、具体的な騒音の規制基準を明記

変更前	変更後
観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策の実施	<u>スタジアムから発生する音に関して、兵庫県条例に定める騒音の規制基準、公園敷地境界で昼間 55 デシベル以下を遵守するため、観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策を実施</u>

(3) 今後の検討に向けて

- ・フィールド内だけを集中して照らせる指向性に優れたスタジアム 照明イメージを掲載
- ・スタジアム 整備イメージに、想定する高さを明記

変更前	変更後
	 <p>写真提供：株式会社 MLJ</p> <p>【スタジアム 照明イメージ】</p>
	<p><u>※スタジアムの高さは、フィールドの地盤面から防音壁を含め北側で 10m 程度、南側で 11 m 程度（最も高い中央部）を想定しています。なお、スタジアム北側における東西道路との高低差は 2 m から 6 m 程度になります。</u></p>

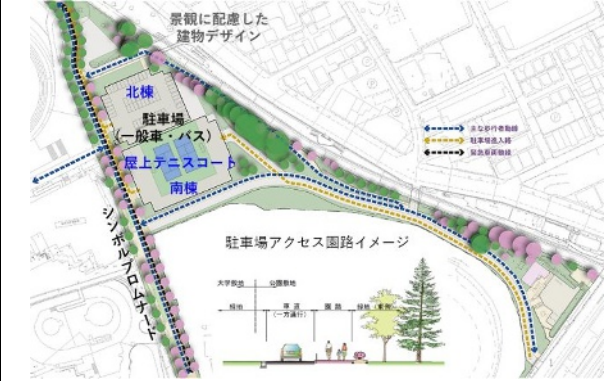

- ・みんなの広場利用等のイメージに、インクルーシブ遊具のイメージを掲載

変更前	変更後
	 <p>写真提供：株式会社コトブキ</p>

3.4.3 駐車場

(2) 計画概要

- ・ 立体駐車場の建物概要に、大型バスの臨時待機場所の確保と想定する建築面積を明記
- ・ 園内・周辺道路に、「歩行者分離」「車道部の一部拡幅」を明記
- ・ 駐車場・アクセス園路の計画図において緊急車両動線を追加

変更前	変更後
整備台数：500 台程度（平日は大型バス駐車枠を 20 台程度確保）	整備台数：500 台程度（平日は大型バス駐車枠を 20 台程度確保） ※ <u>立体駐車場以外にも屋外に大型バス 5 台程度の待機場所を確保</u>
建物概要：北棟 4 階＋屋上（駐車場利用）、南棟 3 階＋屋上（テニスコート 2 面）	建物概要：北棟（ <u>建築面積約 2,000 m²</u> ）4 階＋屋上（駐車場利用）、南棟（ <u>建築面積約 3,000 m²</u> ）3 階＋屋上（テニスコート 2 面）
駐車場アクセス園路（歩行者の安全を確保）	駐車場アクセス園路（ <u>歩車分離を図り歩行者の安全を確保</u> ）
市道阪急沿線の再整備（円滑な入庫動線の確保、市営駐輪場の再編）	市道阪急沿線の再整備（ <u>車道部の一部拡幅による円滑な入庫動線の確保</u> 、市営駐輪場の再編）
 <p>【駐車場・アクセス園路 計画図】</p>	 <p>【駐車場・アクセス園路 計画図】</p>

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 駐車場 整備イメージに、想定する高さを明記

変更前	変更後
	※ <u>駐車場の高さは、現在の補助競技場の地盤面から 15m 程度、屋上テニスコートの防球ネットの高さは 10m 程度を想定しています。</u>

3. 5 広域防災拠点の機能強化 【P.18】

(2) 計画概要

- ・ 緊急車両の動線の確保を明記

変更前	変更後
緊急避難場所や救援活動拠点の確保	緊急避難場所や救援活動拠点、 <u>緊急車両の動線</u> の確保

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 防災機能 配置イメージに、緊急車両(大型車)動線を追加

変更前	変更後
<p>【防災機能 配置イメージ】</p>	<p>【防災機能 配置イメージ】</p>

【王子動物園編】

2 計画のポイント 【P.2】

(1) 動物収集計画（コレクションプラン）

- ・動物収集計画（コレクションプラン）の調整種について、終生飼育することを明記
- ・動物収集計画（コレクションプラン）の新規導入方針について、今後希少種のみ新規導入するという誤解を与えかねないため、“等”を明記
- ・動物収集計画（コレクションプラン）の該当種について、該当種数及び種名を明記

※【全体編】と同様

3 施設の整備方針【P.8】

(2) 来園者の利便性を高める施設整備

- ・2) 動物科学資料館のリニューアルの標題において、〈まもる〉のアイコンを明記

4 王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針 【P.12】

(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進

- ・教育プログラムの充実に、動物とのふれあいを通じた学びの機会を提供することを明記

変更前	変更後
自然保護団体等と連携した園外での自然観察会や参加型の調査活動の他、環境負荷低減を促進する再生可能エネルギーの活用、商品の導入・廃棄物削減等の活動を通じた環境教育等、新たな教育プログラムにも取り組み、来園者が動物や自然環境への興味・関心を持ち、より理解が深まる学習機会を提供していきます。	自然保護団体等と連携した園外での自然観察会や参加型の調査活動の他、 <u>動物とのふれあいを通じた学びの機会</u> や環境負荷低減を促進する再生可能エネルギーの活用、商品の導入・廃棄物削減等の活動を通じた環境教育等、新たな教育プログラムにも取り組み、来園者が動物や自然環境への興味・関心を持ち、より理解が深まる学習機会を提供していきます。

王子公園再整備基本計画(案)

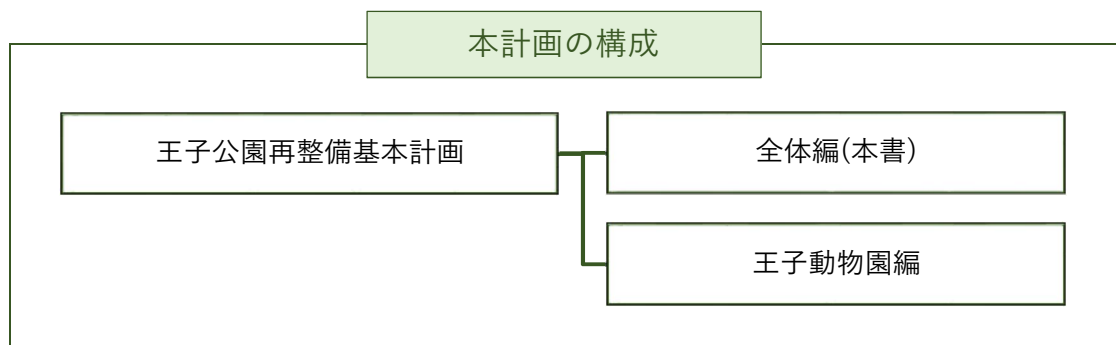
【全体編】

令和 5 年 11 月

神戸市

目次

1	再整備の位置づけ	1
2	計画概成期間（予定）	1
3	5つの基本目標	2
3.1	新たな「原田の森」の創造	2
3.2	学術・文化拠点のシンボルの創出	4
3.3	王子動物園の魅力向上	5
3.4	公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上	9
3.4.1	緑の広場・シンボルプロムナード	9
3.4.2	スポーツゾーン	12
3.4.3	駐車場	16
3.5	広域防災拠点の機能強化	18
4	整備スケジュールと概算事業費	19
4.1	整備スケジュール（予定）	19
4.2	概算事業費（予定）	19
5	関連資料	20
5.1	既存の樹木	20
5.2	大学ゾーンの土地利用の条件	21
5.3	旧ハンター住宅	21

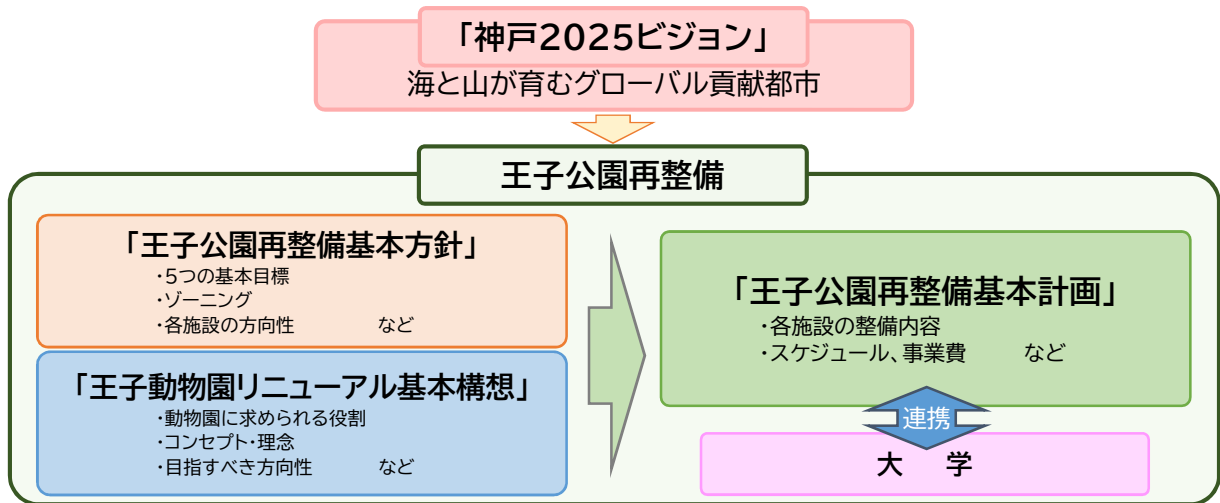


1 再整備の位置づけ

『神戸2025ビジョン（2021年4月）』において、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる生活を享受でき、将来を担う若者が輝き、活躍できる持続可能な社会を築く「海と山が育むグローバル貢献都市」をめざしています。

王子公園再整備にあたっては、利便性が高い文教エリアのポテンシャルを活かしながら、若年定住・交流人口の増加や都市ブランドの向上を図り、持続可能な神戸の発展を実現していくため、2022年（令和4年）12月に「王子公園再整備基本方針」「王子動物園リニューアル基本構想」を策定し、5つの基本目標とゾーニング、王子動物園のコンセプト・理念や目指すべき方向性等を定めました。

本基本計画は、基本方針および基本構想に基づき、各ゾーンにおける施設の具体的な整備内容や事業全体のスケジュール等を定めたものです。



【再整備の位置づけ】



【ゾーニング】

2 計画概成期間（予定）

2024年度（令和6年度）～ 2030年度（令和12年度）

3 5つの基本目標

3.1 新たな「原田の森」の創造

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 新たな「原田の森」の創造を目指し、王子公園全体の魅力を向上させながら、良好な景観の維持、向上を図ります。
- ・ 公園周辺からも公園や緑の存在を強く認識できるように、地形を活かした開放的な景観形成を図ります。
- ・ 市民に親しまれてきた桜や生育良好な既存樹を活かしながら、異常高温対策としても有効な緑陰の創出を行い、存在感のある緑のボリュームや景観を未来につなげます。

(2) 計画概要

- ・ 良好な見通しとなるよう開放的な緑地を整備し、快適で安全安心な緑空間を形成
- ・ 適切な照明配置やフットライトを活用した、明るく安全な空間整備
- ・ シンボルプロムナードに新たな桜を植樹し、桜の通り抜けルートを拡大
- ・ 快適な緑陰のある園路・園地と休憩施設を整備
- ・ 壁面・屋上等における緑化の導入や建築意匠により園内建築物の圧迫感を軽減
- ・ 公園と大学が一体となる空間づくり
- ・ 桜を含む樹木について、新たな植樹などにより現状以上の本数を確保
- ・ ユニバーサルな視点を取り入れた施設整備
(例：園地のバリアフリー化、インクルーシブ遊具、バリアフリースイレ)



【各ゾーンの主な計画概要図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 大学も含めた公園全体で、既存植栽の保存・保全方法や新たな植栽の実施等について、具体策を検討します。
- ・ Living Nature Kobe(*1)やヒーリングガーデン(*2)に代表されるような、本市で取り組む高質な植栽の設えを検討し、王子公園や動物園への来園者や他都市から来訪する来街者への顔となる空間を創出します。
- ・ 防火樹林帯としても機能する公園周囲の既存樹木について、保存に努めます。



【川沿い園地 整備イメージ】

- *1 Living Nature Kobe・・・自然の景の創出による神戸市の新たな緑と花のブランディングの取り組み。社会における持続可能性に対する意識の高まりを踏まえて、緑や花を取り入れた空間の整備に対して、自然環境の視点から新たな役割が求められている。
- *2 ヒーリングガーデン・・・訪れた方々が自然を感じられ、心の癒しとなる高質なみどりあふれる空間。

3.2 学術・文化拠点のシンボルの創出

(1) 理念・コンセプト等

- ・「教育」「研究」「社会貢献」という3つの使命を果たしつつ、王子公園周辺エリアの持つ歴史と文化を尊重するとともに、国内外の人材が集う王子公園周辺エリアの新たな中核施設として、地域と共に成長し、地域活力の醸成や定住人口・関係人口の創出など持続可能な地域社会の形成に貢献する、地域そして世界に開かれた大学を誘致します。
- ・大学には、神戸の将来を牽引する優秀な人材の確保・育成・輩出、産学連携による地元企業の成長・活性化、教育・研究成果の社会への還元といった「市域全体への貢献」、学生と地域や商店街等とが連携した賑わいづくりなど学生による社会貢献、リスキリングやリカレント教育など学び直しの機会の提供といった「近隣地域への貢献」の両立を求めます。

(2) 計画概要

大学設置・運営事業者による事業実施計画の概要は、下記のとおりです。

1. 大学運営（教育・研究等）
 - (1)全体コンセプト
自分で、みんなで。未来を起動するオープンイノベーションパーク
ー地域・社会・世界が大学に入ってくる学びー
 - (2)王子キャンパスで育成する人材像
世界や社会との連携、交流を通じて、国際性や多様性への理解を身につけ、アントレプレナーシップ（起業家精神）を発揮してより良い社会の実現に貢献できるイノベーション人材
 - (3)アカデミックコンセプト
目まぐるしく変転する予測困難（VUCA）な時代を切り拓くイノベーション能力を涵養
 - (4)キャンパスコンセプト
地域・社会・世界の様々な人、情報が行き交うプラットフォームキャンパス
2. 地域・社会への貢献
 - (1)地域経済
 - ・国際性豊かな教職員・学生が神戸を舞台に産官学民連携の取組を展開
 - ・アントレプレナー育成により、王子を創業・成長の基地へ押し上げる
 - (2)地域貢献
 - ・あらゆる世代や属性の人々が日々気軽に訪問できる場として、キャンパス施設を開放
 - ・社会のあらゆる人々が学びの楽しさに目覚めるリカレントラーニングパークの形成
 - ・商店街、王子動物園のイベント等への学生の協力・参加や、研究成果の市民への発信など大学のイベントへの地域住民の参加といった、学生と地域の人々が交流する機会を創出
3. 都市計画・景観等
 - (1)空間
 - ・緑豊かな六甲の山並みと調和したランドスケープを計画
 - ・ボリュームを抑え、六甲の山並みに配慮した分棟による配棟計画
 - ・石積擁壁をなくし、周辺の緑地空間とシームレスに繋がる開放的なキャンパスを整備
 - ・周辺に広がる緑を建物に積層させるとともに、アースカラーを基調とする色彩デザインにより、周辺の自然環境との調和を図る
 - (2)機能
 - ・中庭を含む外部空間を開放し、どこからでも入れる公園のようなキャンパスを整備
 - ・社会とシームレスにつながるキャンパスを目指し、あらゆる世代や属性の人々が日常的にキャンパスに立ち寄り、施設などを利用し、学生と交流できる場と機会を提供
 - ・神戸市と連携し、屋外・屋内避難場所を設置するなど、広域防災拠点の機能の向上に寄与

(3) 今後の検討に向けて

求める大学像の実現に向け、大学との協議を引き続き進めます。

3.3 王子動物園の魅力向上

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に生かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげます。
- ・ 自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が1日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指します。



【理念と5つの目指すべき方向性の概念図】

(2) 計画概要

1) 動物収集計画（コレクションプラン）

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現するため、以下の方針のもと、コレクションプランを策定しました。

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）の策定計画（JCP）に準拠
- ・域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・今後、導入が困難と見込まれる動物は原則、繁殖を行わない
- ・近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進（JCPに準拠または独自の取り組み）
- ・優先種：繁殖を推進（JCPに準拠した計画的な繁殖）
- ・維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・調整種：繁殖を行わない（終生飼育）。もしくは譲渡を促進

○新規導入

- ・域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）等を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進



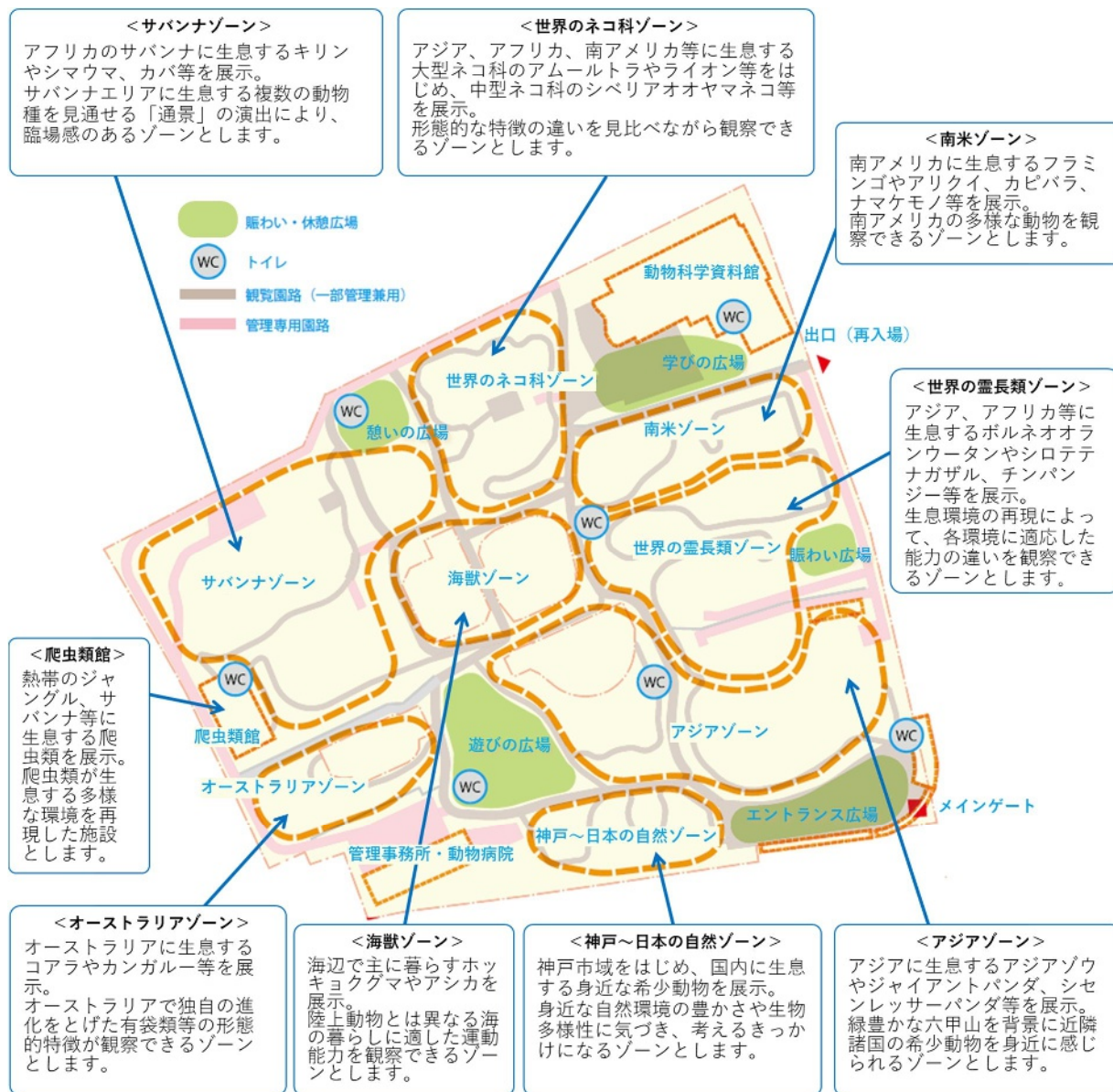
【王子動物園動物収集計画（コレクションプラン）（基本計画策定時）】

繁殖方針 による分類	該当種数 (うち新規導入)	該当種 (新規導入種)
最優先種	8種（2種）	ジャイアントパンダ、コアラ、アジアゾウ、ボルネオオランウータン、アムールトラ、アムールヒョウ、（神戸市内の希少野生動物種、兵庫県内の希少野生動物種）
優先種	15種	キリン、カバ、ユキヒョウ、ジャガー、オオアライクイ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー、シロテテナガザル、ニホンリス、スローリス、マヌルネコ、フタユビナマケモノ、ニシアフリカコガタワニ、ヨウスコウワニ、ヒワコンゴウインコ
維持種	56種	ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソ、アビシニアコロブス、カピバラ、アフリカタテガミヤマアラシ、ワオキツネザル、ニッポンツキノワグマ、ベネットアカクビワラビー、フサオマキザル、ブラザグェノン、ピントロング、ヨザル、コモンマーモセット、エジプトルーセットオオコウモリ、ポリビアリスザル、ボブキャット、シベリアオオヤマネコ、ショウガラゴ、シタツンガ、ヤギ、カイウサギ、モルモット、ロバ、ヒツジ、ラマ、タンチョウ、マナヅル、カンムリシロムク、アカコンゴウインコ、ニジキジ、コバタン、ルリコンゴウインコ、オオハナインコ、シロムネオオハシ、シロフクロウ、ホシハジロ、インドクジャク、ウミネコ、ユリカモメ、ホンドフクロウ、オシドリ、ベニコングウインコ、キエリボウシインコ、オジロワシ、ビルマニシキヘビ、ケヅメリクガメ、ニホンイシガメ、グリーンイグアナ、キタインドハコスッポン、インドホシガメ
調整種	46種	ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ、チベットヒグマ、インドタテガミヤマアラシ、キンカジュウ、コモンリスザル、アカハナグマ、ウマ（カカバ）、キビタイボウシインコ、パナマボウシインコ、ニシムラサキエボシドリ、カンムリヅル、コガモ、ハッカク、アヒル、ガチョウ、ニワトリ、ホロホロチョウ、カワウ、ゴイサギ、シュバシコウ、オナガガモ、カモ雑種、コブハクチョウ、アカツクシガモ、セキセイインコ、フラミンゴ雑種、オオダルメインコ、ヒョウモンガメ、ニシキマゲクビガメ、アカアシガメ、マレーハコガメ、アンボイナハコガメ、セマルハコガメ、ミナミイシガメ、ヒラセガメ、クサガメ、ホオジロクロガメ、トウブハコガメ、ノコヘリマルガメ、オルナータハコガメ
計	127種	

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

2) わかりやすいゾーニング

動物が生息する地域と気候風土との関連を理解しやすいよう地域ごとに動物を集約したゾーンや、動物種の分類に着目したゾーンを設定します。また、世界各地を巡りながら各地域に生息する動物を観覧しているように感じられる仕掛けなどストーリー性のある観覧ルートにします。



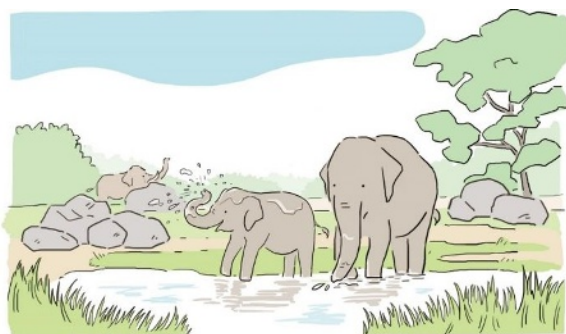
※ゾーニングは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

3) 新たな展示方法の導入

動物福祉の視点に立った飼育環境の向上を図るとともに、自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を、来園者が、一日中ゆっくりと観察し、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物展示を目指します。

1 動物本来のいきいきとした姿を引き出すための展示手法の導入

動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子を観察できる展示や、装置の工夫等により動物本来の能力や行動を引き出す展示等、動物種毎の特性等に応じて、飼育環境の向上を図り、いきいきとした姿を引き出す展示方法を積極的に導入します。



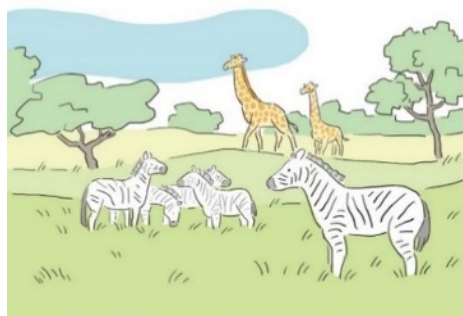
【動物の生息環境を再現する展示のイメージ】



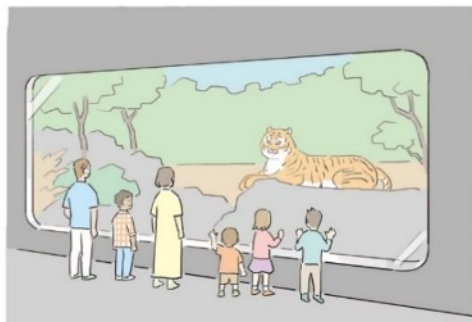
【動物本来の能力や行動を引き出す展示のイメージ】

2 動物たちとの出会いをより印象付けるような演出や工夫

複数の動物種を見通せるような「通景」の演出、自然界の生息環境を踏まえた複数の動物種による混合展示の導入、運動場で活発に活動する動物を広く見渡せる観察場所や動物を間近に観察できる場所の整備等、動物との出会いを様々に楽しめる演出や工夫を行います。



【複数の動物種を見通せるような「通景」のイメージ】



【動物を間近に観察できる場所のイメージ】

(3) 今後の検討に向けて

リニューアルにあたっては、開園しながら工事を進める予定であるため、工事に伴う騒音や照明、動物移動が飼育動物に極力影響が及ばない整備手順を検討するとともに、獣舎整備に伴う飼育動物の退避スペース（仮設獣舎）についても、動物福祉の観点も踏まえながら、空き獣舎や空きスペースの有効活用等で確保していきます。

なお、本計画は、飼育動物の状況や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画を見直ししながら進めていきます。

3.4 公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上

3.4.1 緑の広場・シンボルプロムナード

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 緑豊かで桜の名所として親しまれている自然環境や景観の保全、市民の憩いやスポーツ・子どもたちの学びや成長の場としての利用など、誰もが気軽に憩いくつろげる空間を目指します。

(2) 計画概要

1) 緑の広場

- ・ 芝生広場を中心とした王子公園駅前から公園・動物園を認識できる景観の創出
- ・ 開放的なバリアフリー動線の確保
- ・ 駅、大学、動物園につながる公園と一体的で高質な空間とにぎわいの創出
- ・ 景観木となる既存の大径木の保存活用と新植、既存モニュメント等の残置
- ・ 異常高温対策として有効な休憩スペースや緑陰の創出
- ・ 子ども遊び空間として親水空間や遊具等の設置
- ・ ラジオ体操等の地域活動ができる広場やイベントに使用できる舗装スペースの確保
- ・ 災害時等における緊急車両等の進入路の確保
- ・ 公園に必要な施設・機能（照明・トイレ等）の適切な配置

2) シンボルプロムナード

- ・ 魅力的な緑地軸・景観軸となる歩行者専用園路の整備
- ・ 既存樹木の活用や新たな桜の植樹などによる周辺の建造物の圧迫感の軽減
- ・ 桜の通り抜けルート拡大による魅力的なプロムナードの形成
- ・ 快適に歩けるように平坦部や休憩スペースを設置
- ・ 植栽の隙間から動物が見える・鳴き声が聞こえる仕掛けなど動物園を身近に感じられる演出
- ・ 地域活動やイベントに使用できる舗装スペースの確保



【緑の広場 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 大学ゾーンとの境界となる部分は、一体的な空間となるよう施設や植栽の計画について、大学との協議を引き続き進めます。
- ・ 飲食・物販の機能を想定したにぎわい施設の配置、業態等を検討します。さらに、大学内に設置予定のにぎわい機能と相互に補完するよう、大学との協議を引き続き進めます。
- ・ 様々なイベントや市民参画の仕組みづくりなど、ソフト面でのにぎわいづくりを検討します。
- ・ 異常高温対策に資する遮熱性を高めた自然を感じられる舗装材（現地発生土・木を活かした自然土系舗装やウッドチップ舗装等）、クールスポットとしてミスト等の導入を検討します。
- ・ 園内のジョギングコースや散策コースの設定について検討します。
- ・ 新たなモビリティの導入など、園内の移動手段を検討します。



【緑の広場 整備イメージ】



【シンボルプロムナード 整備イメージ】

3.4.2 スポーツゾーン

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 「誰もが気軽に利用できる多世代スポーツ活動ゾーン」として、引き続き幅広い競技、地域のイベント等の様々な用途で利用できるスタジアムを整備します。
- ・ スタジアム周辺には、子どもから高齢者まで気軽に遊び、誰でも運動できる広場を創出し、利用用途に応じた安全・安心な施設づくりに取り組むとともに、休憩、イベントにも利用できる多目的な空間を整備します。

(2) 計画概要

1) スタジアム

- ・ フィールドは、アメリカンフットボール、サッカーやグラウンドゴルフ、ラクロス等の競技が可能なスペースとして、現在と同規模の約 6,500 m²を確保
- ・ 400mトラック（4レーン）、砂場を配置し、陸上競技の練習に対応
- ・ 観客席は、現在のスタジアムと同規模の 3,000 席程度（一部車椅子用を含む）を設置
- ・ スタジアムから発生する音に関して、兵庫県条例に定める騒音の規制基準、公園敷地境界で昼間 55 デシベル以下を遵守するため、観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策を実施
- ・ 市民の日常的な活動にも利用できる一般開放の時間帯を設定

2) 広場

- ・ スタジアム東側は「多目的広場」とし、休憩スペースやラジオ体操等での利用をはじめ、スタジアムのエントランス空間や大会時のバックヤードエリアとして、シーンに併せた利用が可能な施設を整備
- ・ スタジアム西側は、ちびっこ広場とわんぱく広場に挟まれる形で設置されている弓道場を西側へ再配置し、王子スポーツセンター北側駐車場の進入路を西側へ変更することで、現状の「ちびっこ広場」と「わんぱく広場」をあわせた広さを確保した「みんなの広場」を整備し、幅広い年齢層が利用できる施設を整備

3) テニスコート

- ・ 王子公園内の立体駐車場の屋上にハードコート 2 面を整備。屋上コートの周囲には、屋根付きのベンチを併設し、適宜休憩できるプレー環境を整備
- ・ ポートアイランドに新たに 6 面を新設

4) 登山研修所

- ・他のスポーツ施設との一体的利用が見込めるスポーツゾーン内へ再配置し、市民がより身近に親しむことができる施設を整備
- ・スポーツクライミングウォールや人工岩場を併設するなど、既存の登山研修所の機能を確保するとともにユニバーサルデザインにも配慮した建物を整備

5) 弓道場（近的）

- ・スタジアム西側の「みんなの広場」を一体的なスペースとして確保するため、スポーツゾーン西側へ再配置



【スポーツゾーン 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

1) スタジアム

- ・音響設備は、周辺環境に配慮し、指向性に優れたスピーカーの導入や機器の配置場所を工夫するなどを検討します。
- ・照明設備は、周辺環境への光漏れに配慮し、フィールド内だけを集中して照らせる指向性に優れた機器の導入や配置場所を工夫するなど、検討します。



写真提供：株式会社 MLJ

【スタジアム 照明イメージ】

- ・スタジアムは、六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するように配慮した建築デザインや緑化等を検討します。



動物園資料館屋上からスタジアムを望む



野崎線(スタジアム北東側)からスタジアムを望む



野崎線(スタジアム北側)からスタジアムを望む



野崎線(スタジアム北西側)からスタジアムを望む

【スタジアム 整備イメージ】

※スタジアムの高さは、フィールドの地盤面から防音壁を含め北側で10m程度、南側で11m程度（最も高い中央部）を想定しています。なお、スタジアム北側における東西道路との高低差は2mから6m程度になります。

2) 広場

- ・「多目的広場」のデザインについては「緑の広場」や「シンボルプロムナード」と連続性を持ったものとなるよう検討します。
- ・「みんなの広場」の整備にあたっては、遊具、ボール遊びなど、幅広い年齢層が利用できる施設を検討します。
- ・近隣や広域からも訪れたいくなるような空間となるよう検討します。



【みんなの広場 整備イメージ】



写真提供：株式会社コトブキ



写真提供：株式会社コトブキ



出典：西宮鳴尾浜

<https://www.kobe-np.co.jp/news/odekake-plus/news/detail.shtml>

[?news/odekake-plus/news/experience/201708/10514217](https://www.kobe-np.co.jp/news/odekake-plus/news/experience/201708/10514217)



写真提供：株式会社コトブキ



出典：富山市総合体育館

<https://www.hasetai.com/example/detail/1681/>

【みんなの広場利用等のイメージ】

3.4.3 駐車場

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 駐車場機能を集約して立体化し、緑の広場やシンボルプロムナードなど、人のための空間を創出します。
- ・ 六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう、壁面緑化や周辺の植樹、建物の高さやデザイン等に配慮します。
- ・ 駅に近いという立地特性、平日の利用状況等を踏まえ、現在よりも駐車台数を抑えた規模で整備します。
- ・ 大型バスでの来園にも対応した駐車場整備とします。
- ・ 公共交通機関の利用促進施策の充実、駐車場料金見直し等による交通手段の転換、駐車場混雑状況の情報提供などによる利用時間帯の分散を図ります。
- ・ 駐車場の屋上の一部をテニスコートとして活用します。

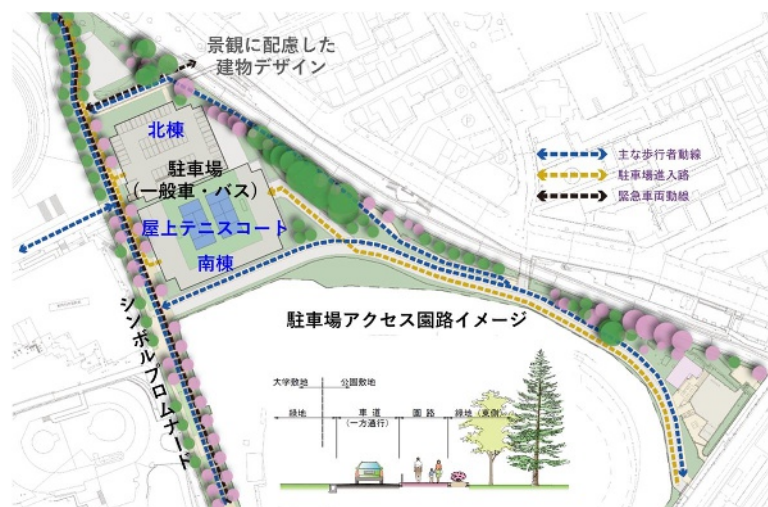
(2) 計画概要

1) 立体駐車場

- ・ 整備台数：500 台程度（平日は大型バス駐車枠を 20 台程度確保）
※立体駐車場以外にも屋外に大型バス 5 台程度の待機場所を確保
- ・ 建物概要：北棟(建築面積約 2,000 m²) 4 階+屋上（駐車場利用）、
南棟(建築面積約 3,000 m²) 3 階+屋上（テニスコート 2 面）
- ・ 建物機能：エレベーター、トイレ、電気自動車充電設備、最新の出入庫管理システム 等

2) 園内・周辺道路

- ・ 駐車場アクセス園路（歩車分離を図り歩行者の安全を確保）
- ・ 市道阪急沿線の再整備（車道部の一部拡幅による円滑な入庫動線の確保、市営駐輪場の再編）



【駐車場・アクセス園路 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう様々な視点場からの景観に配慮した建築デザインや緑化を検討します。
- ・ 駐車場運営システム（料金体系、情報案内、周辺道路への影響を抑えるためのマネジメント方法など）を検討します。
- ・ 公共交通機関の利用促進を図るための施策を検討します。



【駐車場 整備イメージ】

※駐車場の高さは、現在の補助競技場の地盤面から 15m程度、屋上テニスコートの防球ネットの高さは 10m程度を想定しています。

3.5 広域防災拠点の機能強化

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 阪神・淡路大震災の経験を活かした防災機能を確保・強化します。
- ・ 公園全体で広域防災拠点としての機能を強化します。

(2) 計画概要

- ・ ヘリコプター離着陸場の確保
- ・ 緊急避難場所や救援活動拠点、緊急車両の動線の確保
- ・ 雑用水の確保（親水空間・雨水貯留槽等）
- ・ 非常用電源や太陽光発電、かまどベンチなど防災施設の整備
- ・ その他給水拠点や防災行政無線、物資集積配送拠点、地域備蓄拠点など既存機能の維持

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 救援活動拠点については、公園全域で機能を確保できるよう引き続き検討します。
- ・ 大学とも連携しながら、地震災害だけでなく豪雨災害などに対応できるよう防災機能の強化について引き続き検討します。
- ・ 地域や大学と連携して防災施設の活用などに取り組みます。



【防災機能 配置イメージ】

4 整備スケジュールと概算事業費

4.1 整備スケジュール（予定）

年度別整備スケジュール（予定）は、概ね次のとおりです。

施設	年度	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)	2027 (令和9年)	2028 (令和10年)	2029 (令和11年)	2030 (令和12年)	2031 (令和13年)	
動物園	第1フェーズ (順次供用開始)	→								
	第2フェーズ以降 (順次供用開始)	→								
スポーツ施設 公園施設	設計・施工 (順次供用開始)	→								
	計画概成	→								
大学	計画協議・土地譲渡・設計・施工	→						開学	→	

(参考)

※個別の施設整備のスケジュールについては、今後、詳細設計や工事請負契約後の施工計画、大学との協議等により変更が生じる場合があります。

4.2 概算事業費（予定）

計画概成期間にかかる事業費（予定）は、概ね次のとおりです。

施設	整備内容	事業費（円）
動物園	第1フェーズ (全体)	約70億 (約140億)
スポーツ施設	スタジアム、登山研修所、弓道場など	約90億
公園施設	緑の広場、シンボルプロムナード、園地・園路、多目的広場、駐車場など	約100億
総額		約260億 (約330億)

※今後、関係機関との協議や物価水準の変動等により変更が生じる場合があります。

5 関連資料

5.1 既存の樹木

園内には多数の既存樹が存在し、大きく育っている木も多く、常落葉の大径木は、園内の自然な日除けとなり、動物園内では、憩いの場に影をつくり来園者に涼を運んでいます。また、青谷川沿いでは濃い緑を形成し水音と合わさり溪谷のような雰囲気を作り出しています。

桜は、動物園内とテニスコート周囲に多く、それゆえ、本園は桜の名所ともなっており、春には動物園内を主たるルートにした桜の通り抜けが開催され、多くの利用者に親しまれています。

ただし、大径木や特に通り抜けルート上の動物園内の桜の中には、老木で樹勢、傷、腐朽等の異常があり生育回復が望みにくい、活力度の低い樹木も多数あります。



【動物園内の既存大径木の木陰】



【桜の通り抜けルート】



【現況樹木位置図：既存樹全体】

5.2 大学ゾーンの土地利用の条件

誘致する大学が、将来にわたってその役割を担い続けること、地域に開かれた大学と呼ぶにふさわしい施設とすることを目的として、大学ゾーンには次の利用条件を設けます。

①建築物の用途等の制限

大学等の建築物及びそれに附属する建築物のみ建築可能とする。但し、著しい騒音や振動を伴う施設など、周辺環境を著しく悪化させる恐れがある施設を除く。

②建築物の壁面位置の制限

阪急王子公園駅前の開放感を確保する観点から、建築物の外壁又はこれに変わる柱の面から道路境界線までの距離は5 m以上とする。

③かき又はさくの構造の制限

公園との一体性の確保や阪急王子公園駅前の開放感を確保する観点から、緑の広場・遊歩道との敷地境界線と道路境界線に面する部分には、原則として門、塀、垣及びさくを設置してはならない。

5.3 旧ハンター住宅

重要文化財「旧ハンター住宅」については、解体・再建による耐震工事に際して、北野地区への移築の検討を進めます。

王子公園再整備基本計画(案)

【王子動物園編】

令和5年11月

神戸市

目次

1	はじめに	1
	(1) 王子動物園の理念・コンセプトと目指すべき方向性	1
	(2) 基本計画策定までの経緯	1
2	計画のポイント	2
	(1) 動物収集計画（コレクションプラン）	2
	(2) わかりやすいゾーニング	3
	(3) 新たな展示方法の導入	4
3	施設の整備方針	5
	(1) 飼育展示関連施設	5
	(2) 来園者の利便性を高める施設整備	7
4	王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針	10
	(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園	10
	(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進	12
	(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進	13
	(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出	14
	(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園	15
5	工程計画	16
6	実現に向けて	19

1 はじめに

(1) 王子動物園の理念・コンセプトと目指すべき方向性

市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に活かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげます。

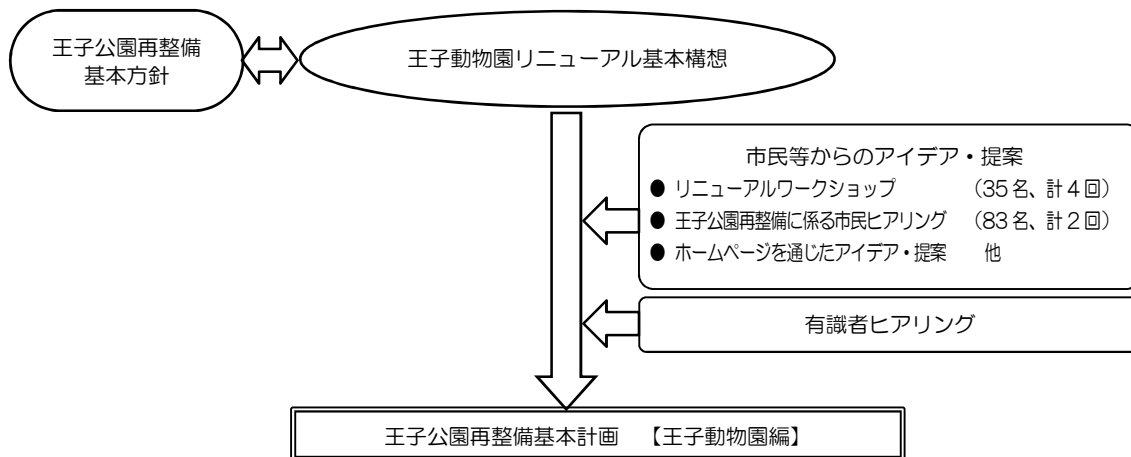
自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が一日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指します。



【理念と5つの目指すべき方向性の概念図】

(2) 基本計画策定までの経緯

基本構想の実現に向けた具体的な取り組みについて、有識者や市民、王子動物園サポーター等様々な主体の参画を得て検討し、策定しました。



2 計画のポイント

(1) 動物収集計画（コレクションプラン）

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現するため、以下の方針のもと、コレクションプランを策定しました。

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）の策定計画（JCP）に準拠
- ・域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・今後、導入が困難と見込まれる動物は原則、繁殖を行わない
- ・近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進（JCPに準拠または独自の取り組み）
- ・優先種：繁殖を推進（JCPに準拠した計画的な繁殖）
- ・維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・調整種：繁殖を行わない（終生飼育）。もしくは譲渡を促進

○新規導入

- ・域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）等を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進



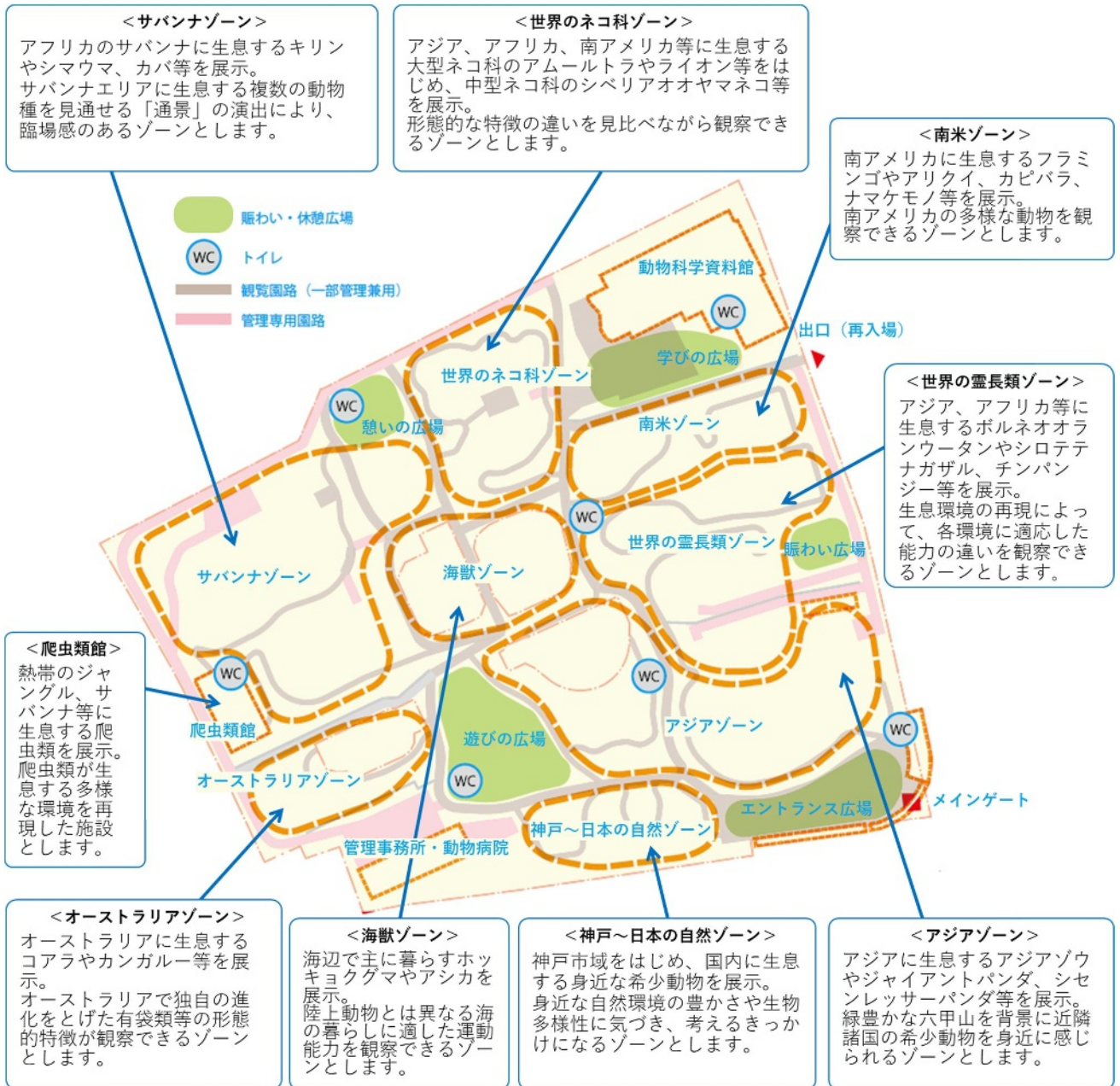
【王子動物園動物収集計画（コレクションプラン）（基本計画策定時）】

繁殖方針 による分類	該当種数 (うち新規導入)	該当種 (新規導入種)
最優先種	8種（2種）	ジャイアントパンダ、コアラ、アジアゾウ、ボルネオオランウータン、アムールトラ、アムールヒョウ、（神戸市内の希少野生動物種、兵庫県内の希少野生動物種）
優先種	15種	キリン、カバ、ユキヒョウ、ジャガー、オオアライクイ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー、シロテテナガザル、ニホンリス、スローロリス、マヌルネコ、フタユビナマケモノ、ニシアフリカコガタワニ、ヨウスコウワニ、ヒワコンゴウインコ
維持種	56種	ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソウ、アビシニアコロブス、カピバラ、アフリカタテガミヤマアラシ、ワオキツネザル、ニッポンツキノワグマ、ベネットアカクビワラビー、フサオマキザル、ブラッサグェノン、ピントロング、ヨザル、コモンマーモセット、エジプトルーセットオオコウモリ、ポリビアリスザル、ボブキャット、シベリアオオヤマネコ、ショウガラゴ、シタツツガ、ヤギ、カイウサギ、モルモット、ロバ、ヒツジ、ラマ、タンチョウ、マナヅル、カンムリシロムク、アカコンゴウインコ、ニジキジ、コバタン、ルリコンゴウインコ、オオハナインコ、シロムネオオハシ、シロフクロウ、ホシハジロ、インドクジャク、ウミネコ、ユリカモメ、ホンドフクロウ、オシドリ、ベニコンゴウインコ、キエリボウシインコ、オジロワシ、ビルマニシキヘビ、ケヅメリクガメ、ニホンイシガメ、グリーンイグアナ、キタインドハコスッポン、インドホシガメ
調整種	46種	ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ、チベットヒグマ、インドタテガミヤマアラシ、キンカジュウ、コモンリスザル、アカハナグマ、ウマ（カカバ）、キビタイボウシインコ、パナマボウシインコ、ニシムラサキエボシドリ、カンムリヅル、コガモ、ハッカク、アヒル、ガチョウ、ニワトリ、ホロホロチョウ、カワウ、ゴイサギ、シュバシコウ、オナガガモ、カモ雑種、コブハクチョウ、アカツクシガモ、セキセイインコ、フラミンゴ雑種、オオダルメインコ、ヒョウモンガメ、ニシキマゲクビガメ、アカアシガメ、マレーハコガメ、アンボイナハコガメ、セマルハコガメ、ミナミイシガメ、ヒラセガメ、クサガメ、ホオジロクロガメ、トウブハコガメ、ノコヘリマルガメ、オルナータハコガメ
計	127種	

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

(2) わかりやすいゾーニング

動物が生息する地域と気候風土との関連を理解しやすいよう地域ごとに動物を集約したゾーンや、動物種の分類に着目したゾーンを設定します。また、世界各地を巡りながら各地域に生息する動物を観覧しているように感じられる仕掛け等、ストーリー性のある観覧ルートにします。



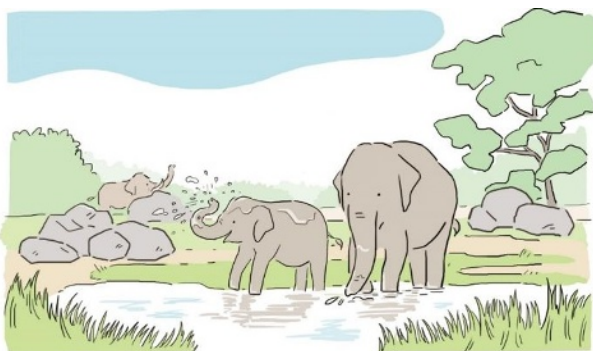
※ゾーニングは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

(3) 新たな展示方法の導入

動物福祉の視点に立った飼育環境の向上を図るとともに、自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を、来園者が、一日中ゆっくりと観察し、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物展示を目指します。

① 動物本来のいきいきとした姿を引き出すための展示方法の導入

動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子を観察できる展示や、装置の工夫等により動物本来の能力や行動を引き出す展示等、動物種毎の特性等に応じて、飼育環境の向上を図り、いきいきとした姿を引き出す展示方法を積極的に導入します。



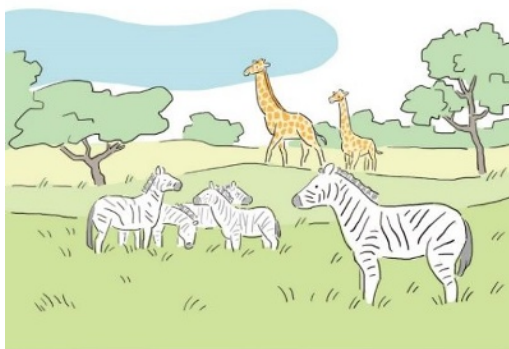
【動物の生息環境を再現する展示のイメージ】



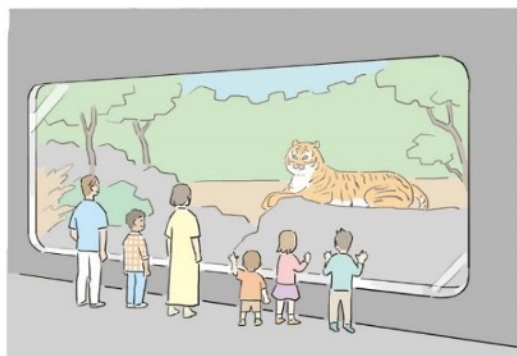
【動物本来の能力や行動を引き出す展示のイメージ】

② 動物たちとの出会いをより印象付ける演出や工夫

複数の動物種を見通せるような「通景」の演出、自然界の生息環境を踏まえた複数の動物種による混合展示の導入、運動場で活発に活動する動物を広く見渡せる観察場所や動物を間近に観察できる場所の整備等、動物との出会いを様々な楽しめる演出や工夫を行います。



【複数の動物種を見通せるような「通景」のイメージ】



【動物を間近に観察できる場所のイメージ】

3 施設の整備方針

(1) 飼育展示関連施設

1) 種の保存や動物福祉の視点に立った施設整備

まもる

種の保存や動物福祉の観点から、動物ファーストの視点に立ち、動物がいきいきとその動物らしく暮らせ、肉体的・精神的により健康で心地よく過ごすことができるよう、飼育環境を整え、飼育方法を工夫し、獣医療の充実等を行っていきます。

① 動物ファーストの獣舎整備

JAZAの「適正施設ガイドライン」をはじめとする国内外のガイドラインに基づく飼育基準等（飼育面積等）を参考とした獣舎や運動場を整備します。特に、アジアゾウやキリンをはじめ、種の保存に取り組む動物種については、ガイドラインに基づく飼育基準を満たしつつ、ゆとりのある寝室面積を確保し、円滑に繁殖を進めることができるスペース等を獣舎に整備します。また、温度管理が重要な動物種については、屋内展示場の整備も検討していきます。

【適正施設ガイドライン（JAZA）に基づく飼育基準の例】

動物種	飼育面積		その他
	屋外	屋内	
アジアゾウ	1頭：500㎡以上	雄1頭又は母子：56㎡以上、雌1頭：37㎡以上	プール：100㎡以上等
キリン	1200㎡以上	1頭：25㎡以上	天井高：6.5m以上等

② 動物ファーストに向けた飼育環境の改善や飼育方法

動物達の暮らしを豊かで充実したものにする環境エンリッチメントに資する整備や、安全でストレスを与えない健康管理を円滑に行うためのハズバンドリートレーニングに取り組みやすい獣舎設備の充実、繁殖兆候や出産状況の把握・動物行動等の分析を行うための監視カメラ、飼育管理に必要な体重計等の設備の充実を図ります。

また、一日でもっとも過ごす時間が長い寝室で、快適に暮らせる環境の充実や、高齢動物の介護等、個別管理が必要な個体にも対応できる獣舎環境の向上を図ります。獣舎や運動場等の内外には、動物の生息環境に生育する植物に類似した樹種等を選定し、生息環境を再現した空間づくりを進めます。

③ 動物の健康を守る管理機能の充実

動物の健康管理の強化等を図るため、動物病院の他、人工哺育室や一時入院舎、検疫に必要な施設や飼料倉庫（冷蔵・冷凍機能付）等の管理機能を有する管理棟を新たに整備します。

2) 安全に学べて楽しい観覧環境

まなぶ

たのしむ

来園者が快適に観覧できるよう立地環境を十分活用し、ストレスのない観覧環境を整備します。
また、来園者・動物双方にとって安全性の高い施設整備を進めます。

① ストレスなく楽しく移動するために

観覧通路は、各ゾーン間を結ぶ「主動線」とゾーン内をめぐる「副動線」による構成を基本とし、一筆書きで全てのゾーンを巡ることができるような推奨ルートの設定に取り組みます。

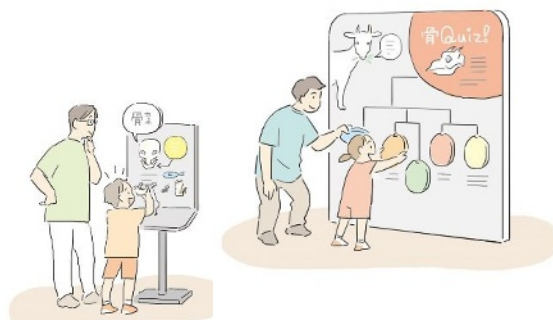
園内全体が、南側が低く北側が高い傾斜地であることを踏まえ、ユニバーサルデザインや楽しく安全に歩行できること等を考慮し、できるだけ自然になじみやすい動線とします。

また、ミスト設備や舗装材の工夫による異常高温対策等、猛暑や雨天時利用も想定したベンチや休憩スペースを適切に配置するとともに、歩きながら子どもたちが楽しく学べる仕掛け（動物にまつわるクイズ等）、ゾーンごとの特性の演出等、楽しく快適な歩行環境を提供します。

更には、高低差のある王子公園・動物園の現状を踏まえ、新たなモビリティ技術の進展も踏まえつつ、人にやさしい移動手段の確保に向けて、継続的に検討を進めます。



【直線を回避した自然になじみやすい園路のイメージ】



【子どもたちが歩きながら楽しく学べる仕掛けのイメージ】

② 管理動線との分離

管理車両の通行が想定される管理動線やバックヤードは、観覧通路と極力交わることがないよう、王子動物園の外周部から各ゾーンにアプローチする構成を基本とします。

③ ユニバーサルデザインに配慮したトイレ等の配置

高齢者や身体障害者、乳幼児を含む親子連れが利用しやすい多機能型のブースを兼ね備えた「ユニバーサルトイレ」を観覧ルートの適切な位置に整備します。

④ 人や動物の安全性を確保した施設整備

飼育動物の脱出、豪雨や台風等の気象災害、動物由来感染症等により来園者の安全性が損なわれないよう、また気象災害や飼育管理上に伴う事故、鳥インフルエンザ等の感染症による飼育動物への被害が発生しない施設整備を行います。

(2) 来園者の利便性を高める施設整備

1) 新たなゲートの整備

たのしむ

来園者の期待感を高めるデザインとするとともに、効果的な情報発信も担う空間とします。また、王子公園全体が灘文化軸の新たな拠点として機能するよう、王子動物園に隣接する、芝生広場・便利施設等を備えた「緑の広場」や桜並木の「シンボルプロムナード」との一体感あるものに整備します。

① ゲートやアプローチ道路における期待感の演出

六甲の自然や動物たちが棲む世界に誘う新たなゲートを創出します。

また、メインゲート付近に、動物園内外から利用できる飲食物販施設を配置するとともに、駐車場からゲートに至るシンボルプロムナードや、阪急王子公園駅やJR 灘駅から王子動物園に至るアプローチ道路と一体的に、動物と出会う楽しさを感じられ、来園者の期待感を高める演出を行います。



【来園者の期待感を高めるアプローチ道路等での演出のイメージ】

② スムーズなゲート運営

デジタル技術の活用により、入園チケットの事前購入等、王子動物園への円滑な入場を促すとともに感染症予防も考慮した新たな入園システムを構築・導入します。また、利便性向上を図るため、コインロッカー、ベビーカーや車椅子貸出、救護室、スタッフ詰所等を整備します。

ゲート付近には、来園者への案内や利用マナー、動物の解説方法等について、デジタルサイネージや二次元バーコード等も活用して多言語で情報発信できる仕組みを導入し、海外からお越しいただいた来場者も含めて、スムーズに安心して王子動物園を楽しむことができるよう整備します。



【スムーズに入入りができるゲートのイメージ】

③ 駐車場にアクセスしやすい出口機能の付加

来園者の利便性向上を図るため、駐車場にアクセスしやすくなるように、北側にも出口（再入場を可能とする機能も考慮）を整備します。

2) 動物科学資料館のリニューアル

まもる

まなぶ

ふかめる

たのしむ

はぐくむ

動物科学資料館は、剥製や骨格標本をはじめとする数多くの収蔵物やホール、収蔵図書等を備える重要な施設であるため、王子動物園における教育や学びの拠点としてさらなる発展を目指したリニューアルを行います。

① 展示コンテンツのリニューアル

社会情勢の変化や技術革新に対応して、仮想現実「VR」や拡張現実「AR」等最新のデジタル技術の活用等により、動物を取り巻く生態系や地球環境等の仕組みを気軽に映像等で体感できる展示内容に更新します。

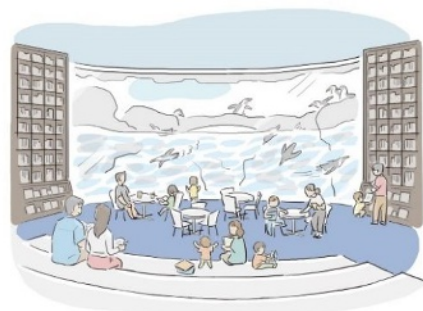
貴重な資料である剥製や骨格標本を保存するスペースも重要であるため、展示機能を備えた収蔵庫や、腐敗せず触れることができる新技術等を導入する等、収蔵物の効率的活用を図るとともに、他の博物館等と連携しながら標本の管理を行います。また、標本を活かした体験プログラムや大学と連携した研究等を展開し、学びを深める空間を創出します。



【既存の収蔵物や最新のデジタル技術等を活用した展示コンテンツのリニューアルイメージ】

② 休憩機能とあわせた図書の閲覧機能の向上

気軽に休憩しながら、図書の閲覧やイベント等ができる場を整えることにより、これまで以上に多くの方に動物や生物多様性等に関する情報を入手できる場を設けます。



【気軽に休憩しながら、図書の閲覧やイベント等ができる場のイメージ】

③ 動物保全活動等に寄与するワーキングスペースの確保

動物ボランティアや自然保護に資する団体、様々な芸術家等が行う活動発表の場となり、また様々な立場の方が地域の生物や自然、環境等の情報交流により、活動を広げていくことができるワーキングスペース等の空間を確保します。



【情報交流や活動を広げるワーキングスペースのイメージ】

3) レクリエーション機能の再配置 たのしむ

動物福祉への対応を前提とした王子動物園のゾーニング等を踏まえ、安全で安心な遊び場や休憩広場等からなるレクリエーション機能の再配置を行います。

① さまざまな広場機能の再配置

王子動物園のゾーニングや想定される利用形態等を踏まえ、様々な広場機能を再配置します。

「エントランス広場」：団体利用に際し集合離散・集合写真撮影、イベント等の空間

「憩いの広場」：ピクニックシートを広げ思い思いにくつろぐ等、癒しを楽しむ空間

「学びの広場」：動物科学資料館付近に位置し、動物の命のぬくもりを体験できる空間

「遊びの広場」：動物や自然を身近に感じながら遊べるレクリエーション機能を有した空間

「賑わい広場」：低年齢層の子どもも安心して遊べるレクリエーション機能を有した空間

② 動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心な遊び場の整備

王子動物園の遊園地は、開園当初から動物園と一体に整備され、現在も多くの人々に親しまれています。しかしながら、施設の老朽化への対応が必要であるとともに、動物園としての役割等を踏まえた新たなレクリエーション機能へと転換する必要性が高まっています。

王子動物園のランドマークとして親しまれてきた既存の「観覧車」については、老朽化への対応を図りつつ、当面の間存続させるとともに、様々な年齢層の子どもたちが楽しめ、かつ動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心なレクリエーション機能を「遊びの広場」や「賑わい広場」に再配置します。



【動物を身近に感じることができる遊び場のイメージ】



【自然をより体感できるような遊び場のイメージ】



【低年齢層が安心して体を動せる遊び場のイメージ】

4 王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針

(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園

まもる

コレクションプランに基づき、希少な種の繁殖に取り組むとともに、大学等の研究機関、自然保護団体等とも連携し、野生動物の保護繁殖と生息環境の保全に貢献する取り組みを推進します。

1) 動物の命をつなぐ

① 質の高い獣医療の提供

多様な動物種に高水準の獣医療を提供するとともに、病態解明や診断、治療に関する臨床研究の積極的な取り組みにより、種の保存や動物福祉の向上に貢献します。



【獣医療設備の充実の例】

<これまでの取り組み>

獣医療設備を随時更新しながら、各動物種に対し適切な検査・治療を実施しています。また、世界的に治療例の少ない動物種については、各種データ（採血部位、採血方法、検査記録、麻酔記録）を蓄積・活用しながら、より精度の高い獣医療の提供を目指しています。

② 域内保全

近年、里山の手入れ不足や外来種の侵入、開発等により、在来種の生息数が減少する等、生物多様性が失われつつあり、「KOBE 里山 SDGs 戦略」により神戸市域の生物多様性保全の取り組みが進められています。王子動物園においては、神戸市域の傷病鳥獣を治療し生息地に復帰させる取り組みを行っていますが、「KOBE 里山 SDGs 戦略」とも連携しながら、希少動物の保全を目指した飼育展示を行うことにより、里山の豊かな自然を守り、人間社会と動物との共生に関する理解を深める取り組みを進めていきます。

また、関係機関や大学等の研究機関、自然保護団体等とも連携しながら、希少動物の生息調査や保全活動に取り組むとともに、国内外の野生動物の生息地で行われている保全活動への協力、フェアトレード等に取り組む、域内保全に貢献していきます。

メモ

※フェアトレードの事例【ツシマヤマネコ米】

絶滅危惧種のツシマヤマネコのエサとなる生物（カエルやネズミ、鳥など）が生息する田んぼを守る活動に貢献できる商品。この商品を購入することで、購入費用の一部を活動費に充当しています。

③ 域外保全

生物多様性保全に貢献しながら飼育を維持できるよう、JAZA が取り組む繁殖計画に協力を行い、国内外の動物園・水族館とも連携しながら、王子動物園のコレクションプランに基づいた繁殖計画を推進していきます。また、これまで培ってきた飼育繁殖技術を活かし、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動物種の繁殖の促進を図る事業等と連携した保全活動に取り組むとともに、認定希少種保全動植物園制度の認定を目指します。

＜これまでの取り組み＞

王子動物園では将来的な野生個体群の絶滅を防ぐため、遺伝的な多様性を維持しながら、飼育している動物の繁殖に取り組んでおり、中国と協力し取り組んだキンシコウの「日中共同飼育繁殖研究」では、中国国外において世界で初めて繁殖に成功し、その子どもを中国へ里帰りさせる等、多くの希少動物の繁殖に成功しています。

- ・アムールヒョウ
- ・アジアゾウ
- ・ボルネオオランウータン
- ・シロテテナガザル
- ・キリン
- ・フラミンゴ
- 等

2) 動物福祉の向上

① 環境エンリッチメントの充実

環境エンリッチメントに取り組む種を増やすとともに、屠体^{とたい}給餌^{きゅうじ}（獣害問題や駆除されたシカ等の命を無駄にしない取り組み）等、動物福祉に資する様々な取り組みに対応できる環境を整備していきます。



【環境エンリッチメントの例】

＜これまでの取り組み＞

動物たちが豊かで充実した日々を過ごせるよう、野生に近い採餌環境等の再現により、野生本来の行動を増やすことができるよう取り組んでいます。

- ・アジアゾウ
- ・キリン
- ・ジャイアントパンダ
- ・ボルネオオランウータン
- ・ツキノワグマ
- 等

② ハズバンドリートレーニングの推進

動物にストレスを与えることなく健康管理や治療を円滑に行えるようにするため、安全面を考慮しながらハズバンドリートレーニングが可能な種を増やしていきます。



【ハズバンドリートレーニングの例】

＜これまでの取り組み＞

様々な動物を健康的に飼育していくため、動物の体に負担なく各種検査（血液採取、レントゲン撮影等）ができる体勢をとってもらつトレーニングを行いながら、体調の把握や治療、動物とのコミュニケーションを行っています。

- ・アジアゾウ
- ・ジャイアントパンダ
- ・カリフォルニアアシカ
- ・キリン
- ・ボルネオオランウータン
- ・ツキノワグマ
- 等

(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進 まなぶ

動物や展示サイン、教育プログラムを通じ、「命の大切さ」や「生物多様性保全に対する理解」が深まる教育を推進していきます。

① 展示動物の生息環境や特性、命の尊さなどを伝える展示機能の充実

獣舎の整備にあわせて、獣舎構造物の壁面、観覧通路等を有効活用して、各ゾーンの雰囲気を演出する壁画や動物の大きさを体感できる原寸大の動物オブジェ等、来園者が楽しみながら学べる仕掛けづくりに取り組みます。この他、展示動物の名称・分類・分布や特性、動物を取り巻く現状等について分かり易く学べる展示を導入します。また、亡くなった動物に感謝や命の大切さ伝えることができるモニュメントを整備するとともに、亡くなった動物を剥製等の標本として活用できるようにしていきます。

<これまでの取り組み>

展示動物の名称・分類・分布・特長等の解説看板を設置し、動物科学資料館では常設展や特設展により主に動物の生態に関する学びの情報発信に努めています。

- ・ 獣舎前の解説看板
- ・ 動物科学資料館での常設展や特設展 等

② 教育プログラムの充実

動物の命の大切さや環境問題について楽しく学べるよう、遠足や家族でも学べるセルフガイド式のプログラムや専用アプリの開発の他、飼育員や獣医師等によるガイドの機会を充実します。

また、自然保護団体等と連携した園外での自然観察会や参加型の調査活動の他、動物とのふれあいを通じた学びの機会や環境負荷低減を促進する再生可能エネルギーの活用、商品の導入・廃棄物削減等の活動を通じた環境教育等、新たな教育プログラムにも取り組み、来園者が動物や自然環境への興味・関心を持ち、より理解が深まる学習機会を提供していきます。



【教育プログラムの例】

<これまでの取り組み>

飼育動物のガイドや餌やり体験、飼育体験等を通じ、動物の魅力や生態、環境保全問題等に関する解説を行っています。

- ・ 餌やりタイム
- ・ 獣医、飼育員等によるツアーガイド
- ・ ボランティアによる動物ポイントガイド
- ・ モルモット等のふれあい体験 等

③ 学校教育との連携

これまでの活動を継続していく他、学校のニーズを把握し、学校教育に向けた動物に関する講演、出張講座の実施、デジタルを活用した教育素材の提供等を行っています。



【教育事業との連携】

<これまでの取り組み>

教育支援事業を年間約 100 件以上開催（令和 3 年度実績）してきた他、小学生向けサマースクール、成人向けの「大人のための動物園講座」等を開催しています。

(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進

ふかめる

専門性の高い大学等研究機関と連携した調査・研究の場とし、動物の生態の理解を深め、将来にわたり動物の飼育・繁殖・福祉の発展に貢献します。王子動物園自体が研究フィールドとなるような環境整備をはじめ、人材育成や研究機関等との連携をより推進し、研究分野の向上を図ります。

1) 次の時代につなげる（研究分野の拡大）

王子動物園自体を研究フィールドとするため、調査研究に適した獣舎整備をはじめ、飼育員や大学等の研究機関・自然保護団体等の交流の場、動物科学資料館を研究成果の発表・閲覧の場とする等、調査研究を推進する体制の構築を図ります。

また、種の保存の推進の観点から人工繁殖技術や生殖細胞凍結保存技術等の向上を目指した共同研究等に取り組むとともに、動物福祉の向上の観点から高度獣医療の整備や、動物行動学、動物心理学等の分野の研究者と連携して研究に取り組みます。

これらの研究から得られた知見や成果を幅広く共有することにより、飼育環境の改善や教育事業へフィードバックし、希少動物の保全や動物福祉の向上に貢献します。



【研究を行いやすい環境整備のイメージ】

<これまでの取り組み>

大学等の研究機関と、動物の繁殖や、生態の解明、健康管理等に関する主な共同研究

神戸大学	学術協定に基づき、オランウータン、ニシゴリラ、アムールトラ、ホッキョクグマ、コアラ、ユキヒョウ、ジャイアントパンダ等の繁殖研究
大阪公立大学	連携協定に基づき、ジャイアントパンダ、アカカンガルー等の高度獣医療による疾病治療
京都大学	アジアゾウのホルモン分析・年齢推定、ユキヒョウのホルモン分析・行動調査・血縁解析、霊長類の生態に関する研究、様々な動物の性別判定・遺伝子解析等
岐阜大学	キリン、ホッキョクグマ、シロサイ、コアラ、アジアゾウ、アムールヒョウ等の繁殖研究
その他	コアラの感染症・遺伝子分析、鳥類のマラリア等の疾病の研究、ネコ科動物のマタビ反応の研究等 等多数

2) 次の世代を育てる（人材育成への貢献）

① 職員の専門性向上

種の保存や動物の健康管理、動物福祉の向上に向けて職員の専門性を更に高めていくため、日頃の業務で培った飼育技術や獣医療技術等を職員相互に共有し、スキルの継承を円滑に行える職場環境や体制づくりとともに、専門性を高めることを目的とした各種研修等の積極的な受講等、人材育成システムの構築を進めます。

② 次世代の育成

教育機関と連携し、学生たちに飼育や研究を通して得られた動物の生態等の知見を広く発信する他、学校教育で取り組む生物多様性保全に関わる研究発表等に協力支援する等、次世代の生物多様性保全を担う人材育成に寄与します。

(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出 たのしみ

広い園内で、来園者が安全に安心して動物園を楽しめる環境を創出するとともに、王子公園全体の計画を踏まえながら、六甲の緑豊かな自然を背景とした景観資源として適切に管理活用し、緑豊かな景観づくりに取り組みます。

① 園内樹木の適切な管理と魅力的な景観形成

既存の樹木等を見据えつつ、緑陰の確保やゾーンごとの演出に配慮した樹種の選定、園内の桜の高齢化への対応等、必要に応じて更新するとともに、六甲山の緑と調和した美しさを感じられるような景観づくりに取り組みます。

さらに、良好な眺望を活かした撮影スポットを設ける等、王子動物園・王子公園に来園した思い出づくりや魅力発信の場づくりを行います。



【緑豊かな景観】



【夜桜通り抜けの様子】

② のんびり動物園を楽しむ

動物園をゆっくり楽しんでもらうために、楽しくお弁当を広げたり体を休めたりすることができるゆとりある休憩広場や、イベントやキッチンカー等のサービス提供に応じた設備の整備等、既存施設も適切に活用しながら、来園者にとって居心地のよい広場空間を提供します。

また、王子動物園や緑の広場等への来場者が一緒に楽しむことができる飲食・物販施設等、魅力的な賑わい機能をゲート近辺に一体的に整備します。王子動物園内においても、食事を楽しむ、軽食等で休憩し、お土産の探索等で楽しめるように、飲食・物販施設や自動販売機を配置するとともに、繁忙日にはキッチンカー等を導入し、快適性や利便性を高めます。

③ イベント等情報が入手しやすい環境づくり

施設内において来園者の視線を集めやすい場所にわかりやすい表現を用いたインフォメーションや専用アプリを導入することで、誰もが手軽にイベント情報やマナー等の関連情報が得られるよう、積極的に発信していきます。

④ 灘文化軸にふさわしいデザイン

獣舎施設や案内サイン等は、動物種・ゾーンごとの生息環境の創出を考慮しつつ、動物園全体で統一性を図るとともに、動物をモチーフとしたデザイン等、園全体の魅力向上に寄与できるデザインとします。

また、アート作家の作品を園内に展示する企画を近隣の美術館等と連携して実施する等、灘文化軸の拠点にふさわしい空間づくりを目指します。

(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園

はぐむ

市民や関連団体、企業等と一体となって、王子動物園を守り育てる仕組みを強化します。また、地域と連携した取り組みを通し、魅力ある地域づくりや地域における人材育成にも繋がります。

① 王子動物園をともに育む基盤づくり

王子動物園をともに育む方々を増やしていくため、動物園のイベント情報にアクセスしやすく情報が得られやすいアプリの開発等の構築や窓口機能の充実を図り、王子動物園を訪れるきっかけづくりを増やします。

また、各種企業等とコラボレーションし、思わず手に入れたくなる王子動物園でしか買えないオリジナルグッズや野生動物の生息環境への負荷の低減を図るフェアトレード商品の提供をはじめ、環境保全に資するイベント企画を展開する等、新たなイノベーションを創出し、HP や SNS での情報発信（X（旧 Twitter）や YouTube チャンネル）、各種マスメディア等を活用して幅広く PR することで、新規来園者やリピーターを増やしていきます。

② 王子動物園をともに育む仕組みの強化

市民や関連団体・企業等による動物サポーター制度のサービスの充実による一層の来園者拡大、クラウドファンディング等多様な寄付・支援制度の導入により、動物の飼料費、獣舎の改修費等を募る制度を充実させ、ファンと共に王子動物園を守り育てる仕組みづくりを進めます。

また、市民や関連団体、地域の学校、企業等がボランティアや地域活動、CSR 活動の一環として、王子動物園の運営に参画し、イベントやガイド、清掃をはじめ、植樹や展示サイン制作等、多様な活動に広く関わっていただける体制づくりを推進します。また、そのような活動を行う拠点としての動物科学資料館の活用を進めます。

<これまでの取り組み>

動物サポーター制度により、企業・団体・個人の方から寄付をいただき、動物たちの餌代や獣舎の整備等の運営費用に充当しています。また、動物ガイドやイベント補助等の活動を行うボランティア制度も運用しています。

③ 地域の活性化

灘文化軸を構成する様々な美術館や地域の学校、商店街等との協働により、回遊性やにぎわいを高め、まち全体の活性化に貢献する取り組みを推進します。

また、地域団体や地元の商店街、企業と連携して動物園の資源を活かしたイベントの実施やグッズ、飲食店のメニュー開発等に取り組むとともに、他の動物園・水族館とも連携しながら、地域全体としての魅力を発掘、展開できる情報発信を進めていきます。

5 工程計画

王子動物園のリニューアル事業は、通常営業を行いながらのリニューアルとなるため、来園者の安全を確保しながら、動物への影響を最小限にできるよう、空き獣舎やスペースの有効活用等、様々な手法をとりながら進めていきます。

早期整備を目指す第1フェーズを確実に進めていくとともに、第2フェーズ以降については、飼育動物の状況や負担の少ない動物移動を見据えながら整備手順を検討します。

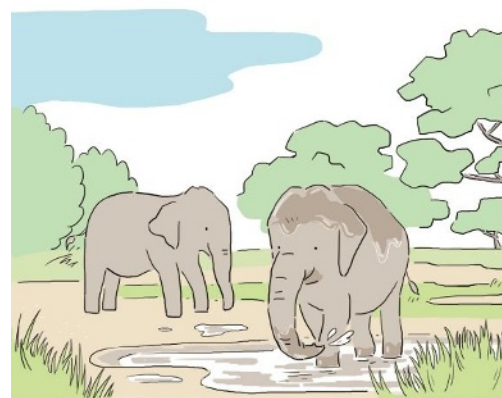
① 第1フェーズ

サバンナゾーンでは、アフリカのサバンナに生息するキリンやシマウマ、カバ等の複数の動物種を見通せる「通景」の演出や生息環境を再現し、生態系が多くの動植物のバランスの中で成り立っていることを体感できるゾーンとして整備し、動物との出会いを楽しめ、生態や暮らしの様子を観察できる展示方法を目指します。



【サバンナゾーンのイメージ】

アジアゾーンでは、アジアゾウの生息環境を再現する等、動物本来の能力や行動を引き出す工夫を行うとともに、ガイドラインに基づく飼育基準を満たしたゆとりのある空間を創出することを目指します。

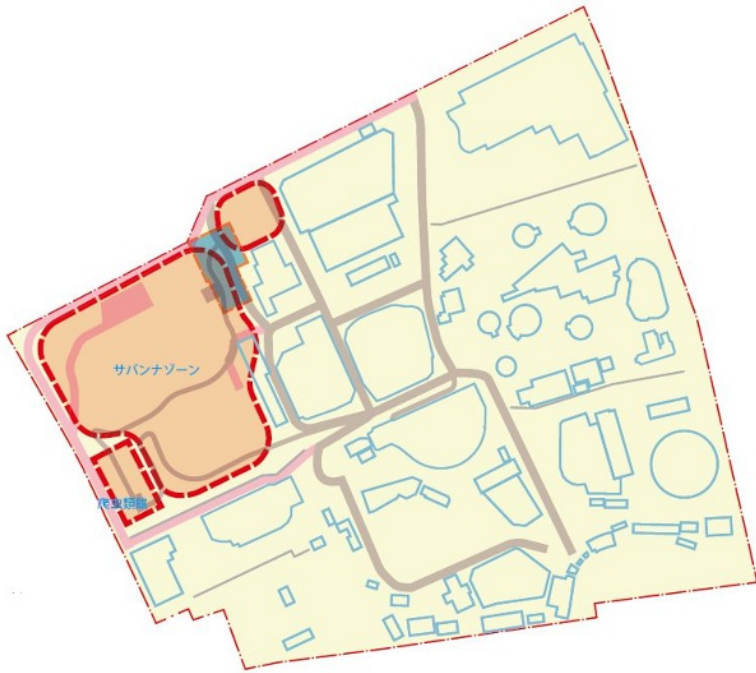


【アジアゾーン（アジアゾウ）のイメージ】

爬虫類館では、熱帯のジャングル、サバンナ等に生息する爬虫類の生息環境を再現し、生態系が多くの動植物のバランスの中で成り立っていることを体感できる施設として新たに整備していきます。

その他、動物管理の中核となる管理事務所や動物病院の整備、新たな王子動物園の顔となるメインゲートを整備していきます。

i) サバンナゾーン・爬虫類館・広場の整備



凡例

- 撤去施設
- 既存施設
- 賑わい・休憩広場
- 観覧園路 (一部管理兼用)
- 管理専用園路

ii) メインゲート・管理事務所・動物病院の整備



iii) アジアゾーン (一部) の整備



② 第2フェーズ以降の整備手順

オーストラリアゾーン・広場の整備



世界のネコ科ゾーンの整備



神戸の森～日本の自然ゾーン・動物科学資料館



凡例

- 撤去施設
- 既存施設
- 賑わい・休憩広場
- 観覧園路 (一部管理兼用)
- 管理専用園路

広場・南米ゾーン・霊長類ゾーンの整備



アジアゾーン (残りの獣舎) の整備



6 実現に向けて

本計画に基づくリニューアルについては、2045（令和27）年度を最終目標とし、総事業費は、約140億円を想定しています。

リニューアルにあたっては、開園しながら工事を進める予定であるため、工事に伴う騒音や照明、動物移動が飼育動物に極力影響が及ばない整備手順を検討するとともに、獣舎整備に伴う飼育動物の退避スペース（仮設獣舎）についても、動物福祉の観点も踏まえながら、空き獣舎や空きスペースの有効活用等で確保していきます。

なお、本計画は、飼育動物の状況や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画を見直しながら進めていきます。

